

2 植物の生育状況

植物の生育状況を把握するに当たり、収集した文献その他の資料は以下のとおりである。

- ・「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省生物多様性センター)
- ・「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」(平成 28 年 宮城県)
- ・「宮城県野生植物目録 2017 引用標本データベース」(平成 30 年 宮城県植物の会)
- ・「宮城の野草」(平成 4 年 河北新報社)

なお、調査対象範囲は動物と同様、事業実施想定区域及びその周囲を含む範囲とし、資料ごとに設定した。調査対象区域は、村田町、柴田町、名取市、岩沼市、川崎町、仙台市太白区とした(沿岸部を除く)。

1) 植物相の状況

事業実施想定区域及びその周囲の植物相の状況を表 3.1-36 に整理した。蘚苔類 25 目 66 科 242 種、維管束植物 59 目 172 科 2,098 種が確認されている。

表 3.1-36 主な植物

分類群及び確認種数等		主な確認種 ^{※1}	
蘚苔類 25 目 66 科 242 種		クマノゴケ、コハイヒモゴケ、ウキゴケ、オオミズゴケ、コマチゴケ、マルバヒメクサリゴケ等	
維管束植物 59 目 172 科 2,098 種	シダ植物 10 目 22 科 169 種	ミズニラ、ヤマハナワラビ、ゼンマイ、サンショウモ、ヒカゲワラビ、ミヤコヤブソテツ、キヨシミヒメワラビ等	
	種子植物 49 目 150 科 1,929 種	ヒノキ目、スイレン目等 8 目 11 科 38 種	アカマツ、キタゴヨウ、ヒノキアスナロ、フサジュンサイ、ヒツジグサ、センリョウ、コシノカンアオイ、ホオノキ、オオバクロモジ等
		単子葉類 10 目 28 科 584 種	マルバオモダカ、トチカガミ、ミズオオバコ、イトモ、エビネ、スズラン、ヒメミクリ、カンスゲ、ススキ、クマザサ等
真正双子葉類 31 目 111 科 1,307 種	フクジュソウ、ベンケイソウ、ミヤコグサ、ミズナラ、ネコヤナギ、スマレ、アブラナ、イヌタデ、カワラニガナ等		
植物相合計 84 目 238 科 2,340 種		—	

※1. 種名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 3 年度生物リスト」(令和 3 年 国土交通省水情報国土データ管理センター)に準拠した。

※2. 文献資料の出典は以下のとおり。

- ①：「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」(平成 28 年 宮城県)
- ②：「宮城県植物誌」(平成 29 年 7 月 宮城県植物の会)
- ③：「宮城の野草」(平成 4 年 河北新報社)

2) 植生の状況

植生の状況は、「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和4年4月)をもとに調査した。事業実施想定区域及びその周囲の現存植生の植生区分を表3.1-37に、現存植生は図3.1-22に示すとおりである。

表 3.1-37 現存植生の植生区分

植生区分	番号※1	群落	植生自然度※2	事業実施想定区域内※3
ブナクラス域 自然植生	1	モミイヌブナ群集	9	
	2	イヌシデーアカシデ群落	9	
	3	アオハダモミ群落	9	
	4	ケヤキ群落 (IV)	9	
	5	ハンノキ群落 (IV)	9	
	6	ヤナギ高木群落 (IV)	9	
	7	ヤナギ低木群落 (IV)	9	
ブナクラス域 代償植生	8	コナラ群落 (V)	7	
	9	アカシデーイヌシデ群落 (V)	7	
	10	オニグルミ群落 (V)	8	
	11	ケヤキ二次林	8	○
	12	アカマツ群落 (V)	7	○
	13	ススキ群団 (V)	5	○
	14	伐採跡地群落 (V)	4	○
ヤブツバキクラス 域自然植生	15	ウラジロガシ群落	9	
	16	シキミーモミ群集	9	○
	17	ケヤキ群落 (VI)	9	
	18	イヌシデーアカシデ群落 (VI)	9	
	19	ヤナギ高木群落 (VI)	9	
	20	コナラ群落 (VII)	7	
	21	クリーコナラ群集	7	○
	22	アズマネザサ群落	5	
	23	クズ群落	5	
	24	ススキ群団 (VII)	5	
河辺・湿原・塩沼 地・砂丘植生等	25	ヨシクラス	10	○
	26	ツルヨシ群集	10	
	27	オギ群集	10	
	28	ヒルムシロクラス	10	
植林地、耕作地植生	29	スギ・ヒノキ・サワラ植林	6	○
	30	アカマツ植林	6	
	31	ニセアカシア群落	3	○
	32	その他植林	3	
	33	その他植林 (落葉広葉樹)	6	
	34	竹林	7	○
	35	ゴルフ場・芝地	4	○
	36	牧草地	2	
	37	路傍・空地雑草群落	2	
	38	放棄畑雑草群落	4	
	39	果樹園	3	
	40	畑雑草群落	2	○
	41	水田雑草群落	2	○
	42	放棄水田雑草群落	4	○
その他	43	市街地	1	○
	44	緑の多い住宅地	2	○
	45	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	—	
	46	工場地帯	—	
	47	造成地	—	
	48	開放水域	—	
	49	自然裸地	—	

※1. 番号は、図3.1-22の図中番号に対応している。

※2. 植生自然度は表3.1-36の番号に対応している。

※3. 事業実施想定区域内に存在する植生に○を表示した。

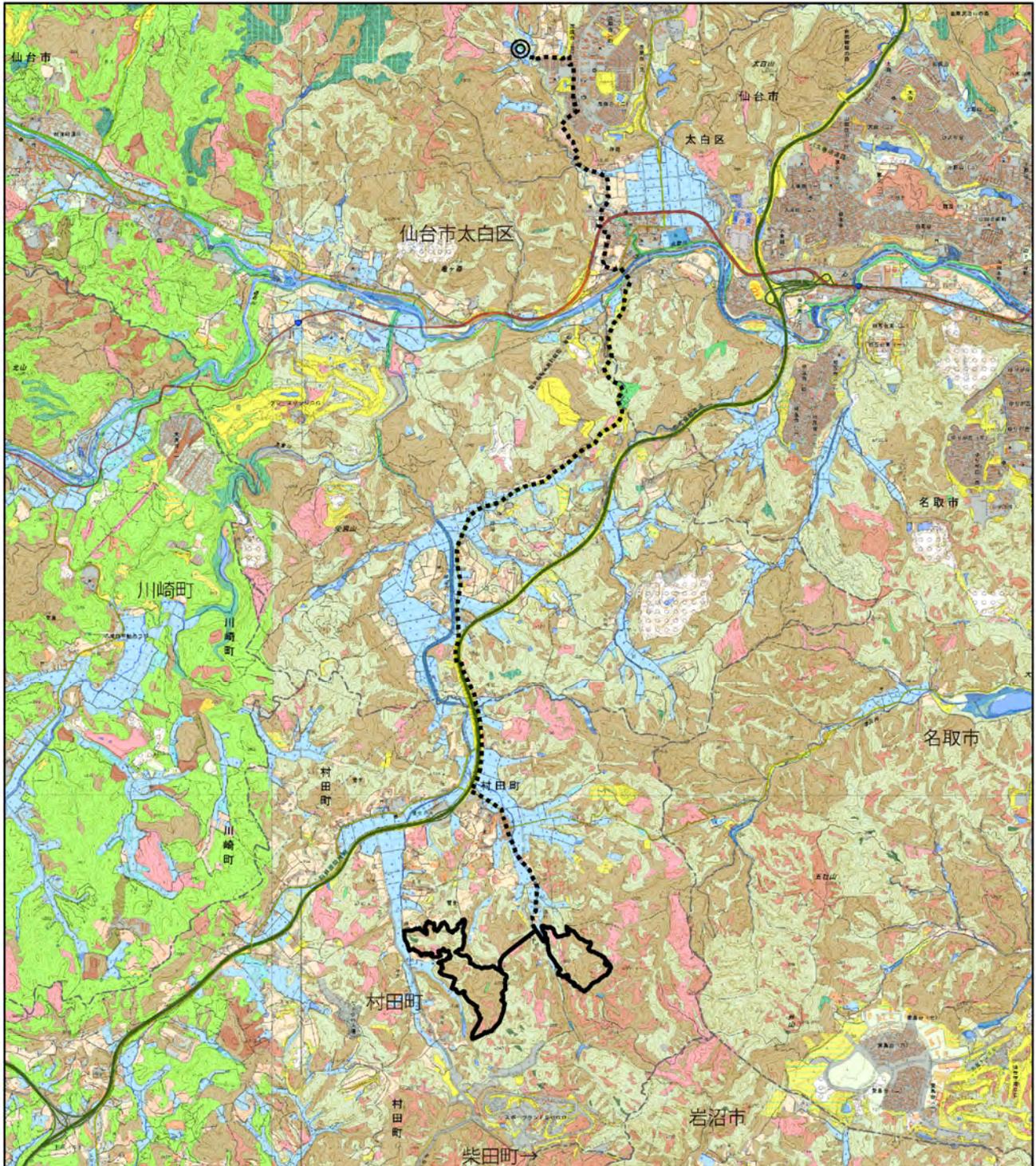
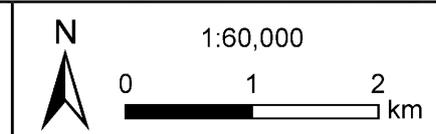


図 3.1-22(1) 現存植生図

凡例

- 事業実施想定区域(村田町内)
- ⊗ 事業実施想定区域(仙台市内)
- 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)
- 行政区域



※ 現存植生図の凡例は次頁を参照。

出典：「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和4年4月)より作成

現存植生図凡例

- | | |
|---|---|
|  1. モミーヌブナ群集 |  26. ツルヨシ群集 |
|  2. イヌシデーアカシデ群落 |  27. オギ群集 |
|  3. アオハダーモミ群落 |  28. ヒルムシロクラス |
|  4. ケヤキ群落(IV) |  29. スギ・ヒノキ・サワラ植林 |
|  5. ハンノキ群落(IV) |  30. アカマツ植林 |
|  6. ヤナギ高木群落(IV) |  31. ニセアカシア群落 |
|  7. ヤナギ低木群落(IV) |  32. その他植林 |
|  8. コナラ群落(V) |  33. その他植林(落葉広葉樹) |
|  9. アカシデーヌシデ群落(V) |  34. 竹林 |
|  10. オニグルミ群落(V) |  35. ゴルフ場・芝地 |
|  11. ケヤキ二次林 |  36. 牧草地 |
|  12. アカマツ群落(V) |  37. 路傍・空地雑草群落 |
|  13. ススキ群団(V) |  38. 放棄畑雑草群落 |
|  14. 伐採跡地群落(V) |  39. 果樹園 |
|  15. ウラジロガシ群落 |  40. 畑雑草群落 |
|  16. シキミーモミ群集 |  41. 水田雑草群落 |
|  17. ケヤキ群落(VI) |  42. 放棄水田雑草群落 |
|  18. イヌシデーアカシデ群落(VI) |  43. 市街地 |
|  19. ヤナギ高木群落(VI) |  44. 緑の多い住宅地 |
|  20. コナラ群落(VII) |  45. 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等 |
|  21. クリーコナラ群集 |  46. 工場地帯 |
|  22. アズマネザサ群落 |  47. 造成地 |
|  23. クズ群落 |  48. 開放水域 |
|  24. ススキ群団(VII) |  49. 自然裸地 |
|  25. ヨシクラス | |

出典：「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和4年4月)より作成

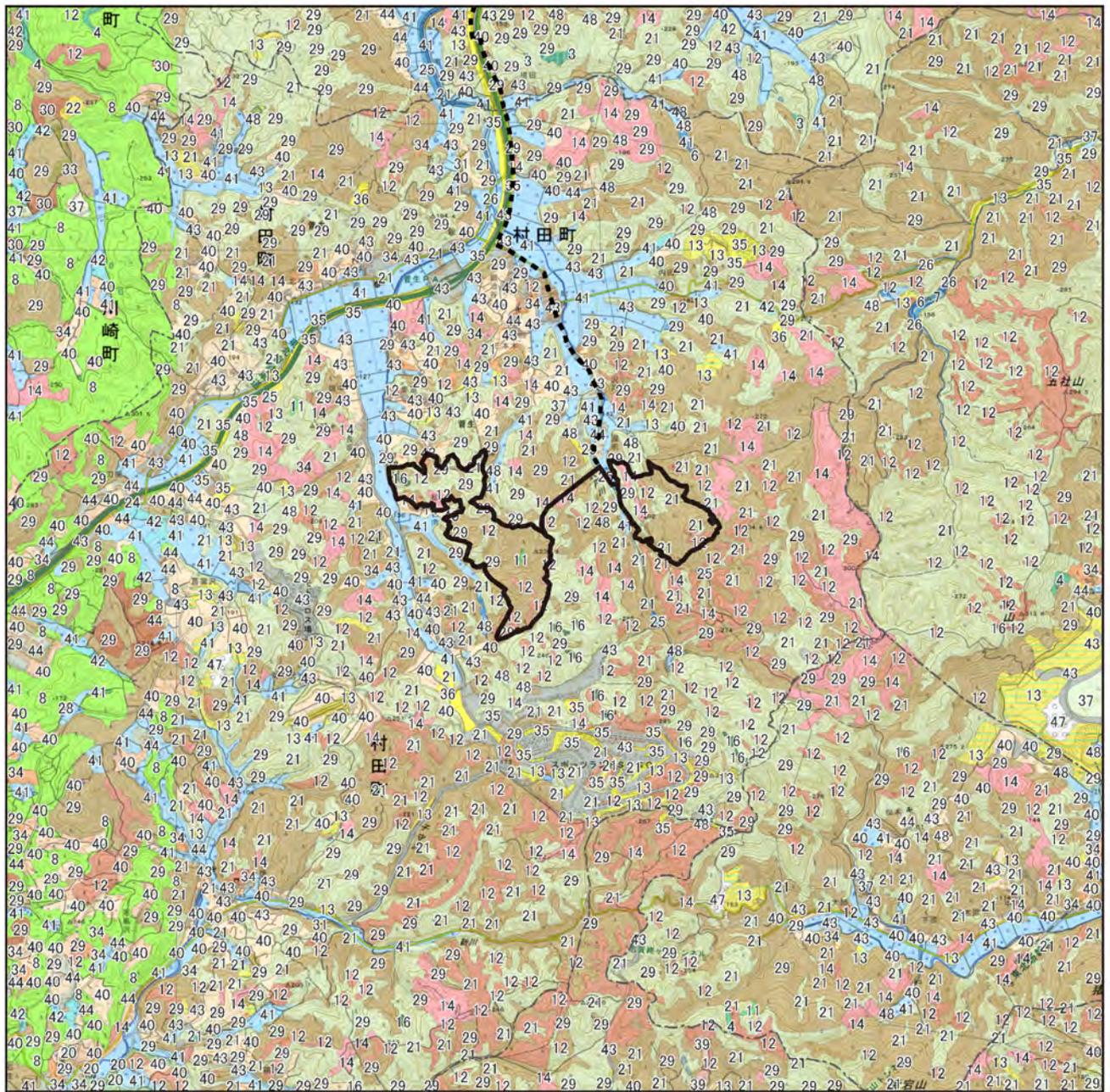
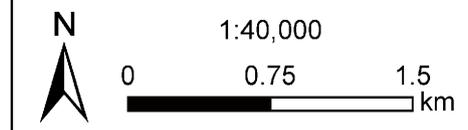


図 3.1-22(2) 現存植生図(村田町内)

凡例

- 事業実施想定区域(村田町内)
- 事業実施想定区域(自営線敷設想定ルート)
- 行政区域



植生図

- | | | | |
|--|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 2.イヌシデアアカシデ群落 3.アオハダ・モミ群落 4.ケヤキ群落(IV) 6.ヤナギ高木群落(IV) 7.ヤナギ低木群落(IV) 8.コナラ群落(V) 11.ケヤキ二次林 12.アカマツ群落(V) | <ul style="list-style-type: none"> 13.ススキ群落(V) 14.伐採跡地群落(V) 16.シキミ・モミ群集 20.コナラ群落(VII) 21.クリ・コナラ群集 22.アズマネザサ群落 24.ススキ群落(VII) 25.ヨシクラス 26.ツルヨシ群集 | <ul style="list-style-type: none"> 28.ヒルムシロクラス 29.スギ・ヒノキ・サワラ植林 30.アカマツ植林 31.ニセアカシア群落 33.その他植林(落葉広葉樹) 34.竹林 35.ゴルフ場・芝地 36.牧草地 37.路傍・空地雑草群落 | <ul style="list-style-type: none"> 38.放棄雑草群落 39.果樹園 40.畑雑草群落 41.水田雑草群落 42.放棄水田雑草群落 43.市街地 44.緑の多い住宅地 47.造成地 48.開放水域 |
|--|--|---|---|

出典：「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和4年4月)より作成

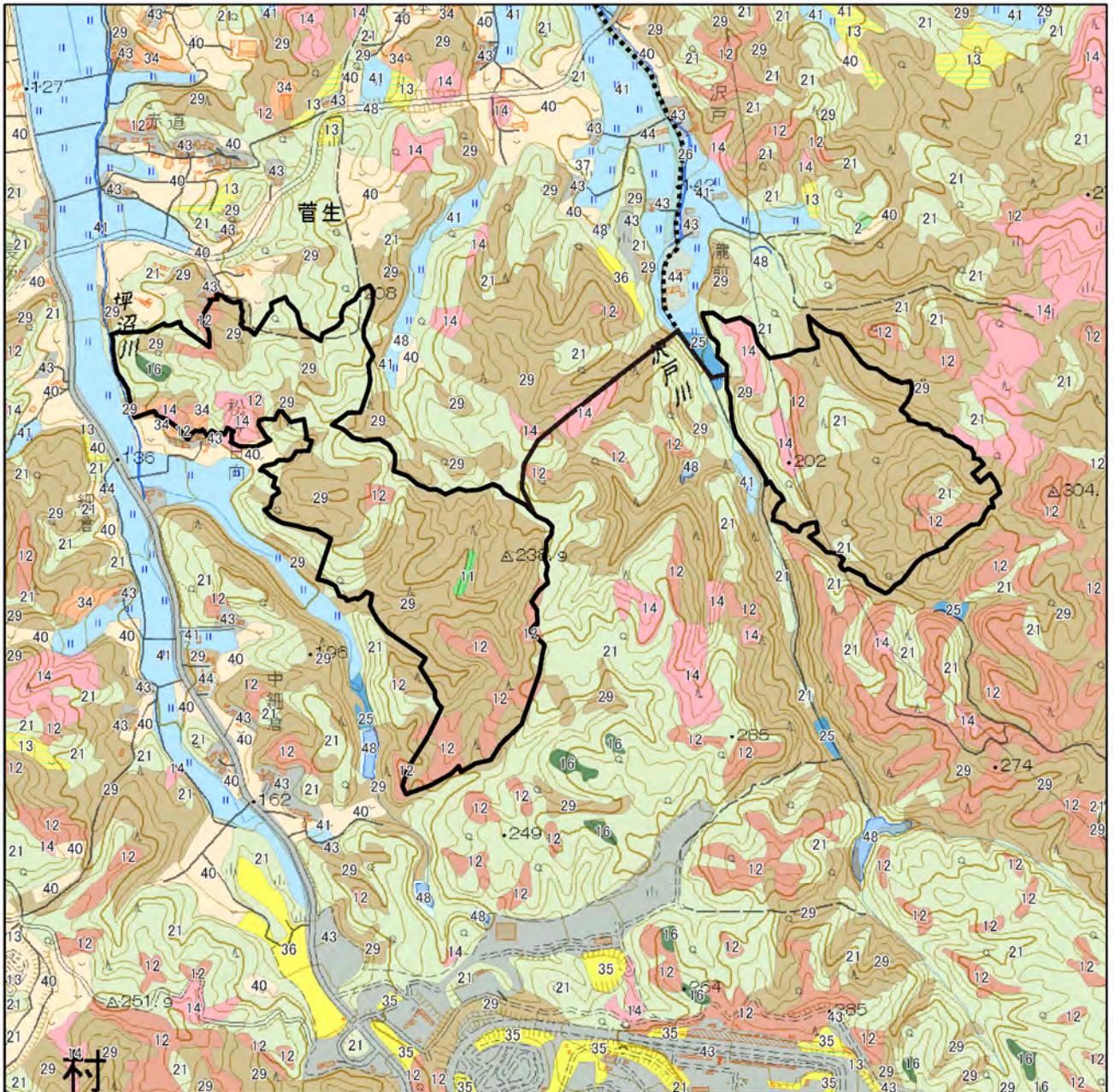


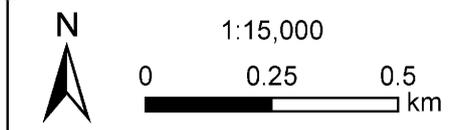
図 3.1-22(3) 現存植生図 (拡大図)

凡例

- 事業実施想定区域(村田町内)
- 事業実施想定区域(自営線敷設想定ルート)

植生図

- | | | |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 2.イヌシデーアカシデ群落 11.ケヤキ二次林 12.アカマツ群落(V) 13.ススキ群団(V) 14.伐採跡地群落(V) 16.シキミーモミ群落 21.クレーコナラ群落 25.ヨシクラス | <ul style="list-style-type: none"> 26.ツルヨシ群集 29.スギ・ヒノキ・サワラ植林 34.竹林 35.ゴルフ場・芝地 36.牧草地 37.路傍・空地雑草群落 40.畑雑草群落 41.水田雑草群落 | <ul style="list-style-type: none"> 43.市街地 44.緑の多い住宅地 48.開放水域 |
|---|--|--|



出典：「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和4年4月)より作成

また、植生自然度は「1/2.5 万植生図を基にした植生自然度について」（環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和 4 年 4 月）より作成した。環境省では植生自然度 9～10 に該当する植物を自然性の高い植生として位置付けている。植生自然度の区分基準を表 3.1-38 に、村田町内の事業実施想定区域及びその周囲の植生自然度を図 3.1-23 に示した。

村田町内の事業実施想定区域の現存植生は、主としてスギ・ヒノキ・サワラ植林(植生自然度 6)、クリ-コナラ群集(植生自然度 7)、アカマツ群落(植生自然度 7)、伐採跡地群落(植生自然度 4)が広がり、一部にケヤキ二次林(植生自然度 8)、シキミ-モミ群集(植生自然度 9)が分布する。また、村田町内の事業実施想定区域の東側エリアの西側にはヨシクラス(植生自然度 10)が隣接している。

表 3.1-38 植生自然度の区分基準

植生自然度	区分基準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツ-トドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	クリ-ミズナラ群落、クヌギ-コナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原
3	果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地
2	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

出典：「1/2.5 万植生図を基にした植生自然度について」（環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和 4 年 4 月）より作成

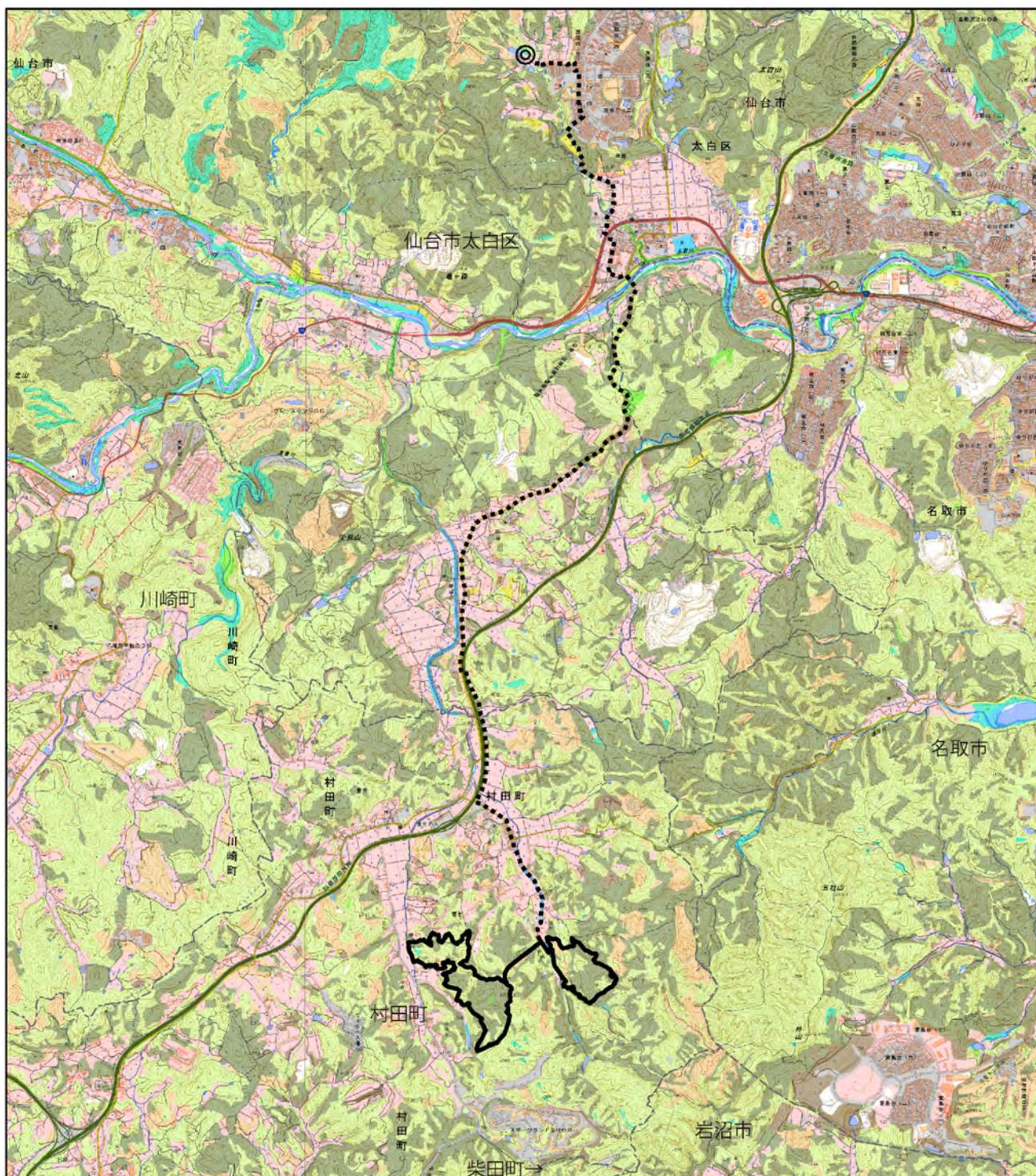


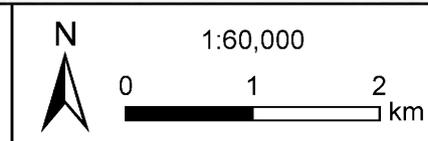
図 3.1-23(1) 植生自然度図

凡例

- ▭ 事業実施想定区域(村田町内)
- ⊙ 事業実施想定区域(仙台市内)
- ⋯ 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)
- ⋯ 行政区域

植生自然度

- | | |
|---|----|
| 1 | 8 |
| 2 | 9 |
| 3 | 10 |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | |
| 7 | |



出典：「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和4年4月)より作成

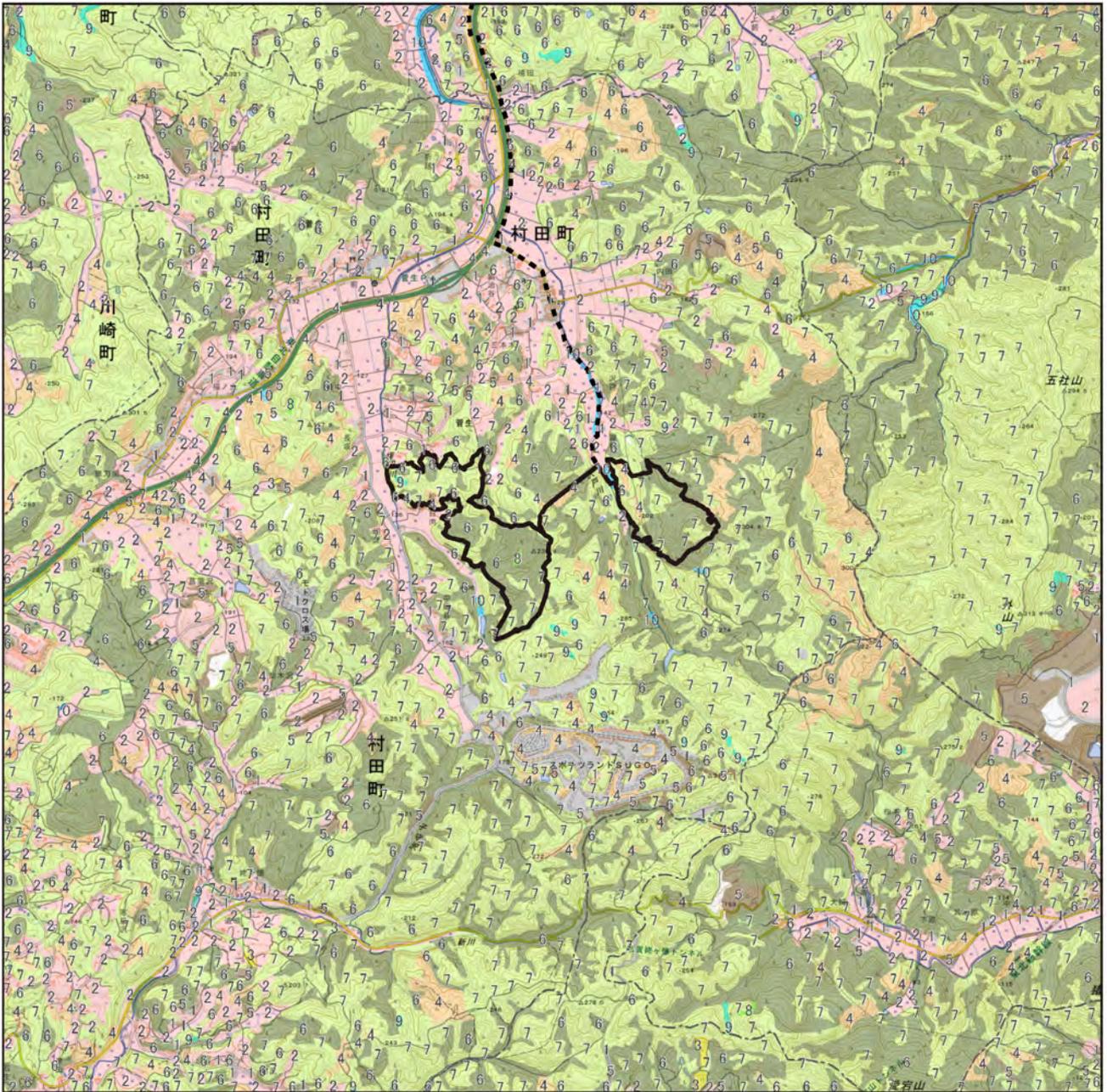


図 3.1-23(2) 植生自然度図 (村田町内)

<p>凡例</p> <p>—— 事業実施想定区域(村田町内)</p> <p>..... 事業実施想定区域 (自営線敷設想定ルート)</p> <p>□□□□ 行政区域</p>	<p>植生自然度</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p>	<p>N</p> <p>1:40,000</p> <p>0 0.75 1.5 km</p>
---	---	---

出典：「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和4年4月)より作成

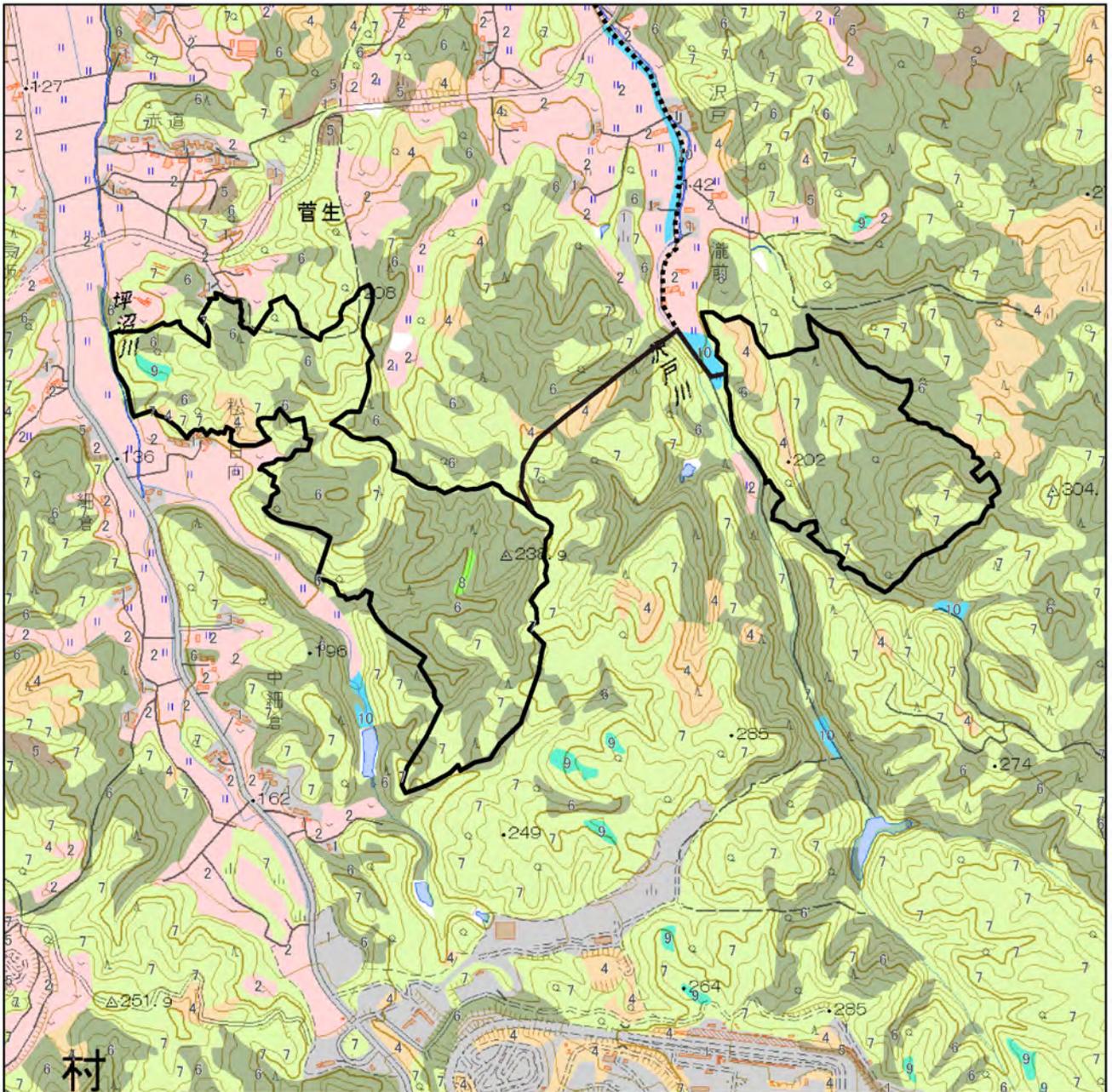


図 3.1-23(3) 植生自然度図 (拡大図)

凡例

- 事業実施想定区域(村田町内)
- 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)

植生自然度

- 1
- 2
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10



1:15,000

0 0.25 0.5 km

出典：「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和4年4月)より作成

3) 重要な種並びに重要な群落及び巨樹・巨木林

(1) 重要な種

事業実施想定区域及びその周囲における植物に係る重要な種は、既存文献より生育が確認された植物群落及び植物種のうち、表 3.1-39 に示す基準に該当するものを選定した。

文献調査で確認された植物のうち重要な種は、表 3.1-40 に示す 53 目 100 科 338 種である。

表 3.1-39 重要な種の選定基準

分類	略称	名称	カテゴリ
法規制等	文法	『文化財保護法』 (昭和 25 年 法律第 214 号) 『宮城県文化財保護条例』 (昭和 50 年 宮城県条例第 49 号) 『村田町文化財保護条例』 (平成元年 村田町条例第 14 号) 『仙台市文化財保護条例』 (昭和 37 年 仙台市条例第 27 号)	<ul style="list-style-type: none"> ・特天：特別天然記念物 ・国天：天然記念物 ・県天：県指定天然記念物 ・町天：町指定天然記念物 ・市天：市指定天然記念物
	種法	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)』 (平成 4 年 法律第 75 号)	<ul style="list-style-type: none"> ・国内：特定国内希少野生動植物種
RDB等	環 RL	『環境省レッドリスト』 (令和 2 年 環境省)	<ul style="list-style-type: none"> ・EX：絶滅 ・EW：野生絶滅 ・CR：絶滅危惧 I A 類 ・EN：絶滅危惧 I B 類 ・VU：絶滅危惧 II 類 ・NT：準絶滅危惧 ・DD：情報不足 ・LP：絶滅のおそれのある地域個体群
	宮 RDB ①	『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-RED DATA BOOK MIYAGI2016-』 (平成 28 年 宮城県)	<ul style="list-style-type: none"> ・EX：絶滅 ・EW：野生絶滅 ・CR+EN：絶滅危惧 I 類 ・VU：絶滅危惧 II 類 ・NT：準絶滅危惧 ・DD：情報不足 ・LP：絶滅のおそれのある地域個体群 ・要注目種
	宮 RL ②	『宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2022 年版-』 (令和 4 年 宮城県)	<ul style="list-style-type: none"> ・EX：絶滅 ・EW：野生絶滅 ・CR+EN：絶滅危惧 I 類 ・VU：絶滅危惧 II 類 ・NT：準絶滅危惧 ・DD：情報不足 ・LP：絶滅のおそれのある地域個体群 ・要注目種

表 3.1-40 (1) 重要な植物種一覧

No.	目名	科名	種名※1	選定基準※2					
				文法	種法	環RL	宮RDB①	宮RL②	
1	ミズゴケ	ミズゴケ	シタミズゴケ				CR+EN	CR+EN	
2	キセルゴケ	キセルゴケ	クマノチョウジゴケ				VU	VU	
3			クマノゴケ			NT	CR+EN	CR+EN	
4	スギゴケ	スギゴケ	オキナスギゴケ			CR+EN	VU	VU	
5	シッポゴケ	キンシゴケ	ヒメキンシゴケ				DD	DD	
6	ギボウシゴケ	ギボウシゴケ	ヤマトハクチョウゴケ				VU	NT	CR+EN
7	ホンマゴケ	ハリガネゴケ	カサゴケモドキ				VU	CR+EN	CR+EN
8	イヌマゴケ	カワゴケ	コシノヤバネゴケ			CR+EN	CR+EN	CR+EN	
9		ハイヒモゴケ	キヨスミイトゴケ				CR+EN	CR+EN	
10			コハイヒモゴケ				CR+EN	CR+EN	
11	シトネゴケ	キヌゴケ	ヤリノホゴケ				VU	VU	
12		ハイゴケ	コウライイチイゴケ				CR+EN	NT	
13	ゼニゴケ	ウキゴケ	イチョウウキゴケ			NT	CR+EN	CR+EN	
14	ツボミゴケ	ミズゴケ	コアナミズゴケ				CR+EN	CR+EN	
15			オオミズゴケ				CR+EN	CR+EN	
16	コマチゴケ	コマチゴケ	コマチゴケ				CR+EN	CR+EN	
17	クモノスゴケ	チヂレヤハズゴケ	エゾヤハズゴケ				CR+EN	CR+EN	
18	クラマゴケモドキ	クラマゴケモドキ	クラマゴケモドキ				CR+EN	CR+EN	
19		クサリゴケ	ヤマナカヨウジョウゴケ				VU	VU	
20			マルバヒメクサリゴケ				VU	VU	
21			ナカジマヒメクサリゴケ				VU	VU	
22	ツボミゴケ	ハネゴケ	ヨコグラハネゴケ				CR+EN	CR+EN	
23		ヤバネゴケ	シフネルゴケ				CR+EN	CR+EN	
24	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	スギラン			VU	CR+EN	CR+EN	
25	イワヒバ	イワヒバ	イヌカタヒバ			VU			
26	ミズニラ	ミズニラ	ミズニラ			NT	NT	NT	
27			ミズニラモドキ			VU	CR+EN	CR+EN	
28	ハナヤスリ	ハナヤスリ	ヤマハナワラビ				VU	VU	
29			トネハナヤスリ			VU	CR+EN	CR+EN	
30	ゼンマイ	ゼンマイ	ヤシャゼンマイ				NT	NT	
31	コケシノブ	コケシノブ	ホソバコケシノブ					NT	
32			コハイホラゴケ				VU	VU	
33	サンショウモ	デンジソウ	デンジソウ			VU	EW	EW	
34		サンショウモ	アカウキクサ			EN	CR+EN		
35			サンショウモ			VU	NT	NT	
36	ウラボシ	イノモトソウ	イノモトソウ				NT	NT	
37			オオバノハチジョウシダ				CR+EN	CR+EN	
38		メシダ	ヒロハイヌワラビ				VU	CR+EN	
39			コウライイヌワラビ			VU	CR+EN	CR+EN	
40			ヤブシダ				NT	NT	
41			セイタカシケシダ				VU	VU	
42			ヒカゲワラビ				VU	VU	
43			オニヒカゲワラビ				VU	VU	
44			ハカタシダ				CR+EN	CR+EN	
45			ミヤコヤブソテツ				CR+EN	CR+EN	
46			サクライカグマ				CR+EN	CR+EN	
47			オオイタチシダ				NT	NT	
48			ギフベニシダ				CR+EN	CR+EN	
49			リョウトウイタチシダ					NT	
50			キヨスミヒメワラビ				VU	VU	
51			イノデモドキ				VU	VU	

表 3.1-40(2) 重要な植物種一覧

No.	目名	科名	種名 ^{*1}	選定基準 ^{*2}					
				文法	種法	環RL	宮RDB①	宮RL②	
52	ウラボシ	ウラボシ	マメヅタ				NT	NT	
53			イワオモダカ				VU	VU	
54	スイレン	スイレン	ネムロコウホネ			VU	DD		
55	シキミ	マツブサ	チョウセンゴミシ				CR+EN	CR+EN	
56	コショウ	ウマノスズクサ	ドクダミ				VU	VU	
57			ウマノスズクサ					NT	
58			フタバアオイ				CR+EN	CR+EN	
59			ミチノクサイシン			VU	NT	NT	
60			コシノカンアオイ			NT	CR+EN		
61	クスノキ	クスノキ	ヤブニッケイ				CR+EN	CR+EN	
62	オモダカ	オモダカ	サジオモダカ				NT	NT	
63			マルバオモダカ			VU	CR+EN	CR+EN	
64			アギナシ			NT	VU	VU	
65			ウリカワ					NT	
66			トチカガミ	スブタ			VU	CR+EN	CR+EN
67				ヤナギスブタ				VU	VU
68				トチカガミ			NT	CR+EN	VU
69				サガミトリゲモ			VU	VU	VU
70				イトトリゲモ			NT	NT	NT
71				ホッスモ				VU	VU
72				オオトリゲモ				CR+EN	VU
73				イトイバラモ			VU	CR+EN	CR+EN
74				ミズオオバコ			VU	NT	VU
75		コウガイモ					CR+EN	VU	
76		セキショウモ					CR+EN	CR+EN	
77		ヒルムシロ		イトモ			NT	要注目種	NT
78				コバノヒルムシロ			VU	VU	VU
79				エゾノヒルムシロ				VU	VU
80			センニンモ				VU	VU	
81			ミズヒキモ				VU	VU	
82			ホソバミズヒキモ				VU	VU	
83			ヒロハノエビモ				CR+EN	CR+EN	
84			ツツイトモ			VU	CR+EN	CR+EN	
85			ササバモ				CR+EN	CR+EN	
86			カワツルモ	カワツルモ			NT	VU	VU
87		タコノキ	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ			VU	CR+EN	CR+EN
88		ユリ	サルトリイバラ	マルバサンキライ				CR+EN	VU
89	ユリ		ミヤマスカシユリ			EN		VU	
90	アマナ						VU	VU	
91	クサスギカズラ	ラン	コアニチドリ			VU	CR+EN	CR+EN	
92			エビネ			NT	VU	VU	
93			キンセイラン			VU	CR+EN	CR+EN	
94			ユウシュンラン			VU	NT	NT	
95			キンラン			VU	VU	VU	
96			クゲヌマラン			VU	CR+EN	CR+EN	
97			トケンラン			VU	CR+EN	CR+EN	
98			コアツモリソウ			NT	CR+EN	VU	
99			クマガイソウ			VU	CR+EN	CR+EN	
100			ハマカキラン			VU	NT	VU	
101			エゾスズラン				NT	VU	
102			カモメラン			NT	CR+EN	CR+EN	

表 3.1-40(3) 重要な植物種一覧

No.	目名	科名	種名※1	選定基準※2						
				文法	種法	環RL	宮RDB①	宮RL②		
103	クサスギカズラ	ラン	マツラン			VU	CR+EN	CR+EN		
104			シロテンマ			CR	VU	CR+EN		
105			ヒロハツリシュスラン			EN	CR+EN	CR+EN		
106			ヒメミヤマウズラ				CR+EN	CR+EN		
107			ミズトンボ				VU	CR+EN	CR+EN	
108			オオミズトンボ				EN	CR+EN	CR+EN	
109			ムカゴソウ				EN	VU	VU	
110			ヒメノヤガラ				VU	VU	VU	
111			ハクウンラン					VU	VU	
112			ギボウシラン				EN	CR+EN	CR+EN	
113			フガクスズムシソウ				VU	CR+EN	CR+EN	
114			セイタカスズムシソウ					CR+EN	CR+EN	
115			ジガバチソウ					NT	NT	
116			スズムシソウ					CR+EN	CR+EN	
117			ノビネチドリ					VU	VU	
118			ヒメフタバラン					要注目種	要注目種	
119			アオフタバラン					VU	VU	
120			ミヤマモジズリ					CR+EN	CR+EN	
121			サギソウ				NT	CR+EN	CR+EN	
122			ミズチドリ					VU	VU	
123			イイヌマムカゴ				EN	CR+EN	CR+EN	
124			ツレサギソウ					NT	VU	
125			マイサギソウ					CR+EN	CR+EN	
126			ヤマサギソウ					VU	VU	
127			トキシソウ				NT	VU	VU	
128			ヤマトキシソウ					CR+EN	CR+EN	
129			ウチョウラン				VU	CR+EN	CR+EN	
130			ヒナチドリ				VU	CR+EN	CR+EN	
131			カヤラン					VU	VU	
132			ヒトツボクロ						NT	
133			ショウキラン					CR+EN	CR+EN	
134			アヤメ		ヒオウギ				CR+EN	CR+EN
135					ヒメシャガ			NT	NT	NT
136					カキツバタ			NT	VU	VU
137					アヤメ				NT	NT
138			ヒガンバナ		ギョウジャニンニク			CR+EN	CR+EN	
139			クサスギカズラ		スズラン			VU	VU	
140					ヒメイズイ				NT	NT
141			ツユクサ	ツユクサ	ヤブミョウガ				CR+EN	CR+EN
142				ミズアオイ	ミズアオイ			NT		NT
143	イネ	ガマ	ミクリ			NT	NT	NT		
144			ヤマトミクリ			NT	CR+EN	CR+EN		
145			ナガエミクリ			NT	NT	NT		
146			ヒメミクリ			VU	VU	VU		
147		ホシクサ		ホシクサ			要注目種	NT		
148		カヤツリグサ		イセウキヤガラ				VU	VU	
149				ヤマクボスゲ			NT	VU	VU	
150				スナジスゲ					NT	NT
151				ハコネイトスゲ					CR+EN	CR+EN
152				ムジナスゲ					VU	VU
153	タチスゲ							CR+EN	CR+EN	

表 3.1-40(4) 重要な植物種一覧

No.	目名	科名	種名※1	選定基準※2						
				文法	種法	環RL	宮RDB①	宮RL②		
154	イネ	カヤツリグサ	ノゲヌカスゲ				要注目種	要注目種		
155			ユキグニハリスゲ				CR+EN	CR+EN		
156			マメスゲ				CR+EN	CR+EN		
157			オオクグ			NT	NT	NT		
158			カンエンガヤツリ			VU	VU	VU		
159			タチヒメクグ					VU		
160			ニイガタガヤツリ			CR	要注目種	NT		
161			チシママツバイ			VU	CR+EN	CR+EN		
162			スジヌマハリイ			VU	VU	VU		
163			コツブヌマハリイ			VU	VU	VU		
164			チャボイ			VU	CR+EN	CR+EN		
165			サギスゲ				NT	NT		
166			ナガボテンツキ				VU	VU		
167			トネテンツキ			VU	CR+EN	CR+EN		
168			ノグサ				VU	VU		
169			コシンジュガヤ					VU		
170			イネ	イネ	ヒメコヌカグサ			NT		NT
171					ヒナザサ			NT	VU	VU
172					ウキガヤ				NT	NT
173					カリヤス				要注目種	要注目種
174		アイアシ						NT	NT	
175		タチイチゴツナギ					EN		VU	
176		ハマヒエガエリ							VU	
177		タチドジョウツナギ							要注目種	
178		アキウネマガリ						CR+EN	CR+EN	
179		ヤマキタダケ							NT	
180		ヒメスズダケ						NT	NT	
181		ウシクサ				CR+EN	CR+EN			
182		キンポウゲ	ケシ	ナガミノツルケマン					NT	
183				ヤマブキソウ					NT	
184				オサバグサ				CR+EN	CR+EN	
185	ツツラフジ		ツツラフジ				DD	DD		
186	キンポウゲ		キンポウゲ	センウズモドキ			VU	要注目種	NT	
187				フクジュソウ				VU	VU	
188				レンゲショウマ					NT	
189				カザグルマ			NT	VU	VU	
190				アズマシロカネソウ				CR+EN	CR+EN	
191				トウゴクサバノオ					NT	
192				シラネアオイ					NT	
193				スハマソウ				NT	NT	
194				オキナグサ			VU	CR+EN	CR+EN	
195				コキツネノボタン			VU	VU	VU	
196				ヒキノカサ			VU	CR+EN	CR+EN	
197				ヒメバイカモ			EN	CR+EN	CR+EN	
198				バイカモ					NT	
199				マンセンカラマツ			EN	VU	VU	
200				イワカラマツ			VU		NT	
201				ユキノシタ	ボタン	ヤマシャクヤク			NT	CR+EN
202		ベニバナヤマシャクヤク						VU	VU	VU
203	ベンケイソウ	ベンケイソウ					VU	CR+EN		
204		ツメレンゲ				NT	DD	DD		

表 3.1-40(5) 重要な植物種一覧

No.	目名	科名	種名※1	選定基準※2					
				文法	種法	環RL	宮RDB①	宮RL②	
205	ユキノシタ	ベンケイソウ	アズマツメクサ			NT	VU	VU	
206			タコノアシ			NT		NT	
207			アリノトウグサ	オグラノフサモ			VU	VU	VU
208				タチモ			NT	VU	VU
209	マメ	マメ	モメンヅル				VU	VU	
210			ジャケツイバラ				CR+EN	CR+EN	
211			タヌキマメ				CR+EN	CR+EN	
212			ケヤブハギ				要注目種	NT	
213			エゾノレンリソウ					NT	
214			レンリソウ					VU	
215			イヌハギ			VU	NT	NT	
216			マキエハギ				NT	NT	
217			オオバタンキリマメ				NT	NT	
218			センダイハギ				CR+EN	CR+EN	
219	バラ	イラクサ	マルバヤブマオ				VU	VU	
220			トキホコリ			VU	VU	VU	
221			コケミズ				NT	NT	
222		バラ	チョウセンキンミズヒキ			VU	NT	NT	
223			エチゴキジムシロ				要注目種	要注目種	
224			シャリンバイ					要注目種	
225			ハマナス				NT	NT	
226			サナギイチゴ			VU	要注目種	NT	
227	ブナ	ブナ	アラカシ				要注目種	要注目種	
228	ニシキギ	ニシキギ	イワウメヅル				DD	NT	
229			クロヅル			DD			
230	キントラノオ	トウダイグサ	ノウルシ			NT	要注目種	NT	
231			マルミノウルシ			NT	VU	VU	
232			センダイタイゲキ			NT	CR+EN	CR+EN	
233		ヤナギ	シライヤナギ				CR+EN	VU	
234		スミレ	エゾノタチツボスミレ				NT	NT	
235		オトギリソウ	オシマオトギリ				VU	VU	
236	フトモモ	ミソハギ	ヒメミソハギ				CR+EN	CR+EN	
237			ミズマツバ			VU	VU	VU	
238			ヒメビシ			VU	CR+EN	CR+EN	
239		アカバナ	カラフトアカバナ				NT	NT	
240	アオイ	アオイ	カラスノゴマ					NT	
241	アブラナ	アブラナ	ハマハタザオ					NT	
242			ミズタガラシ				VU	VU	
243			エゾハタザオ				要注目種	NT	
244			コイヌガラシ			NT	CR+EN	CR+EN	
245			ハタザオ					VU	
246	ナデシコ	イソマツ	ハマサジ			NT	CR+EN	CR+EN	
247		タデ	アブクマトラノオ				VU	NT	
248			ヒメタデ			VU	VU	VU	
249			ヤナギヌカボ			VU	要注目種	NT	
250			ナガバノウナギツカミ			NT	VU	VU	
251			サデクサ				NT	NT	
252			ヌカボタデ			VU	要注目種	NT	
253			ホソバイスタデ			NT	NT	NT	
254			ノダイオウ			VU	要注目種	NT	
255			マダイオウ				CR+EN	CR+EN	

表 3.1-40(6) 重要な植物種一覧

No.	目名	科名	種名※1	選定基準※2				
				文法	種法	環RL	宮RDB①	宮RL②
256	ナデシコ	ナデシコ	タチハコベ			VU	要注目種	NT
257			ワダソウ				VU	VU
258			ナンプワチガイソウ			VU	NT	NT
259		ヒユ	ハマアカザ					NT
260			アカザ			VU		
261			ハママツナ				NT	NT
262	ミズキ	アジサイ	クサアジサイ				CR+EN	VU
263	ツツジ	サクラソウ	ヤナギトラノオ				VU	VU
264			クリンソウ				VU	VU
265			サクラソウ			NT	CR+EN	CR+EN
266		ツバキ	ナツツバキ				VU	VU
267	リンドウ	アカネ	オオキヌタソウ				NT	NT
268		リンドウ	ホソバノツルリンドウ				VU	CR+EN
269			イヌセンブリ			VU	VU	NT
270		マチン	アイナエ				CR+EN	CR+EN
271		キョウチクトウ	フナバラソウ			VU	VU	VU
272			コカモメヅル					VU
273			スズサイコ			NT	VU	VU
274	ナス	ナス	ヤマホロシ				VU	VU
275	ムラサキ	ムラサキ	ムラサキ			EN	CR+EN	CR+EN
276			ルリソウ				NT	NT
277			ツルカメバソウ			EN	CR+EN	CR+EN
278	シソ	イワタバコ	イワタバコ				CR+EN	CR+EN
279		オオバコ	マルバノサワトウガラシ			VU	VU	VU
280			アブノメ				VU	CR+EN
281			オオアブノメ			VU	要注目種	NT
282			ヒシモドキ			EN	EX	EX
283			クワガタソウ				VU	NT
284			カワヂシャ			NT	NT	NT
285		ゴマノハグサ	ゴマノハグサ			VU	VU	CR+EN
286			ヒナノウスツボ				DD	DD
287		シソ	キセワタ			VU	VU	CR+EN
288			ヒメハッカ			NT	CR+EN	CR+EN
289			シラゲヒメジソ				要注目種	NT
290			ヤマジソ			NT	VU	VU
291			ナミキソウ				NT	NT
292			エゾニガクサ			EN	CR+EN	CR+EN
293			カリガネソウ				CR+EN	CR+EN
294		ハマウツボ	タチコゴメグサ				VU	VU
295			ケヤマウツボ				要注目種	要注目種
296			ハマウツボ			VU	NT	CR+EN
297			キヨスミウツボ				VU	VU
298		タヌキモ	イヌタヌキモ			NT	VU	NT
299			ミミカキグサ				CR+EN	CR+EN
300			タヌキモ			NT	CR+EN	CR+EN
301	ヒメタヌキモ				NT	CR+EN	CR+EN	
302	オオタヌキモ				NT	NT	VU	
303	ムラサキミミカキグサ				NT	NT	NT	
304	キツネノマゴ	ハグロソウ				CR+EN	VU	
305	クマツヅラ	クマツヅラ				VU	VU	
306	モチノキ	モチノキ	ソヨゴ				NT	NT

表 3.1-40(7) 重要な植物種一覧

No.	目名	科名	種名 ^{※1}	選定基準 ^{※2}					
				文法	種法	環RL	宮RDB①	宮RL②	
307	キク	キキョウ	バアソブ			VU	CR+EN	CR+EN	
308			キキョウ			VU	VU	NT	
309		ミツガシワ	ヒメシロアサザ			VU	VU	VU	
310			ガガブタ			NT	CR+EN	CR+EN	
311			アサザ			NT	VU	VU	
312		キク	シオン			VU			
313			シュウブンソウ					NT	
314			エゾノタウコギ				VU	VU	
315			ヒメガンクビソウ				VU	VU	
316			キクタニギク			NT		NT	
317			ナトリアザミ				CR+EN	CR+EN	
318			アズマギク				VU	VU	
319			フジバカマ			NT		NT	
320			タカサゴソウ			VU	VU	VU	
321			ノニガナ				NT	NT	
322			カワラニガナ			NT	VU	VU	
323			コオニタビラコ					VU	
324			ミチノクヤマタバコ				VU	VU	
325			オオニガナ				NT	NT	
326			ムラサキニガナ				NT	NT	
327			カシワバハグマ				VU	VU	
328			アキノハハコグサ			EN	VU	CR+EN	
329			アオヤギバナ				VU	CR+EN	
330			オカオグルマ				VU	CR+EN	
331			オナモミ			VU	VU	VU	
332		セリ	セリ	エキサイゼリ			NT	CR+EN	CR+EN
333				ミシマサイコ			VU	CR+EN	CR+EN
334				ホタルサイコ				NT	NT
335				タニミツバ				VU	VU
336				ヌマゼリ			VU	NT	VU
337		マツムシソウ	ガマズミ	レンブクソウ				NT	NT
338		スイカズラ	マツムシソウ					VU	
合計	53 目	100 科	338 種	0 種	0 種	148 種	299 種	331 種	

※1. 種名等は「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」(平成 28 年 宮城県)及び「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 3 年度生物リスト」(令和 3 年 国土交通省水情報国土データ管理センター)に準拠した。

※2. 重要な種の選定基準は、表 3.1-37 に示した略称を表記している。

(2) 重要な植物群落の状況

事業実施想定区域及びその周囲における植物の生育状況を把握するに当たり、収集した文献その他の資料は以下のとおりである。

- ・「第2回 自然環境保全基礎調査 植生調査報告書（全国版）」
（昭和56年 環境省生物多様性センター）
- ・「第3回 自然環境保全基礎調査 植生調査報告書（全国版）」
（昭和63年 環境省生物多様性センター）
- ・「第5回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落報告書」
（平成12年3月 環境庁生物多様性センター）
- ・「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」
（平成28年 宮城県）

植物群落に係る重要な種は、既存文献より生育が確認された植物群落及び植物種のうち、表 3.1-41 に示す基準に該当するものを選定した。

表 3.1-41 重要な群落の選定基準

分類	略称	名称	カテゴリ
法規制等	文法	『文化財保護法』 （昭和25年 法律第214号） 『宮城県文化財保護条例』 （昭和50年 宮城県条例第49号） 『村田町文化財保護条例』 （平成元年 村田町条例第14号） 『仙台市文化財保護条例』 （昭和37年 仙台市条例第27号）	<ul style="list-style-type: none"> ・特天：特別天然記念物 ・国天：天然記念物 ・県天：県指定天然記念物 ・町天：町指定天然記念物 ・市天：市指定天然記念物
RDB等	群 RDB	『植物群落レッドデータブック』 （平成8年（財）日本自然保護協会他）	<ul style="list-style-type: none"> ・4：緊急に対策必要 ・3：対策必要 ・2：破壊の危惧 ・1：要注意
	宮 RDB ①	『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-RED DATA BOOK MIYAGI2016-』 （平成28年 宮城県）	<ul style="list-style-type: none"> ・D：壊滅 ・4：壊滅状態 ・3：壊滅危惧（要対策） ・2：壊滅危惧 ・1：要注意
	宮 RL ②	『宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト2022年版-』 （令和4年 宮城県）	<ul style="list-style-type: none"> ・D：壊滅 ・4：壊滅状態 ・3：壊滅危惧（要対策） ・2：壊滅危惧 ・1：要注意
その他	環基	『第2回 自然環境保全基礎調査』 （昭和56年 環境庁） 『第3回 自然環境保全基礎調査』 （平成元年 環境庁） 『第5回 自然環境保全基礎調査』 （平成12年 環境庁）	<ul style="list-style-type: none"> ・特群：特定植物群落
	自然度	『自然環境保全基礎調査（植生調査）』 （環境省生物多様性センター）	<ul style="list-style-type: none"> ・植生自然度10：自然草原 ・植生自然度9：自然林

文献調査で確認された重要な植物群落は、表 3.1-42 に示す植生自然度 10 及び 9 に該当する植生と、天然記念物を抽出した。

村田町内の事業実施想定区域内では、シキミ-モミ群集(植生自然度 9)が該当する。また、事業実施想定区域及びその周囲には天然記念物の「シダレザクラ」と「滝前不動のフジ」が分布している。なお、村田町内の事業実施想定区域の東側エリアの西側にはヨシクラス(植生自然度 10)が隣接している。重要な植物群落を図 3.1-24 に示した。

表 3.1-42(1) 重要な植物群落

選定基準 自然度	植生区分	群落
植生自然度 10	河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	ヨシクラス、ツルヨシ群集、オギ群集、ヒルムシロクラス
植生自然度 9	ブナクラス域自然植生	モミ-イヌブナ群集、イヌシデーアカシデ群落、アオハダ-モミ群落、ケヤキ群落 (IV)、ハンノキ群落 (IV)、ヤナギ高木群落 (IV)、ヤナギ低木群落 (IV)
	ヤブツバキクラス域自然植生	シキミ-モミ群集

出典：「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和4年4月)より作成

表 3.1-42(2) 重要な植物群落(天然記念物)

選定基準*	指定自治体	所在地	名称	樹種
町天	村田町	村田町	シダレザクラ	シダレザクラ
国天	国	川崎町	滝前不動のフジ	フジ

※. 選定基準は、表 3.1-41 に示した略称を表記している。

出典：「文化遺産オンライン」(文化庁HP、閲覧：令和4年4月)より作成

(3) 巨樹・巨木の状況

文献その他資料調査(表 3.1-43)によると、事業実施想定区域及びその周囲において、表 3.1-44、図 3.1-24 に示すとおり、巨樹・巨木林の分布記録がある。

表 3.1-43 文献その他の資料一覧(巨樹・巨木林)

文献番号	資料名	調査項目	発行
1	『第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査(自然環境情報GIS提供システム)』(平成3年)	巨樹・巨木林	環境省
2	『第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査(自然環境情報GIS提供システム)』(平成13年)	巨樹・巨木林	環境省

表 3.1-44 事業実施想定区域及びその周囲の巨樹・巨木林

文献番号	樹種	名称	所在地	幹周(cm)	樹高(m)
1	フジ	滝前不動のフジ	川崎町	280	28
2	アスナロ	南条家	岩沼市	340	15

出典：「第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査(自然環境情報GIS提供システム)」

(環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和4年4月)より作成

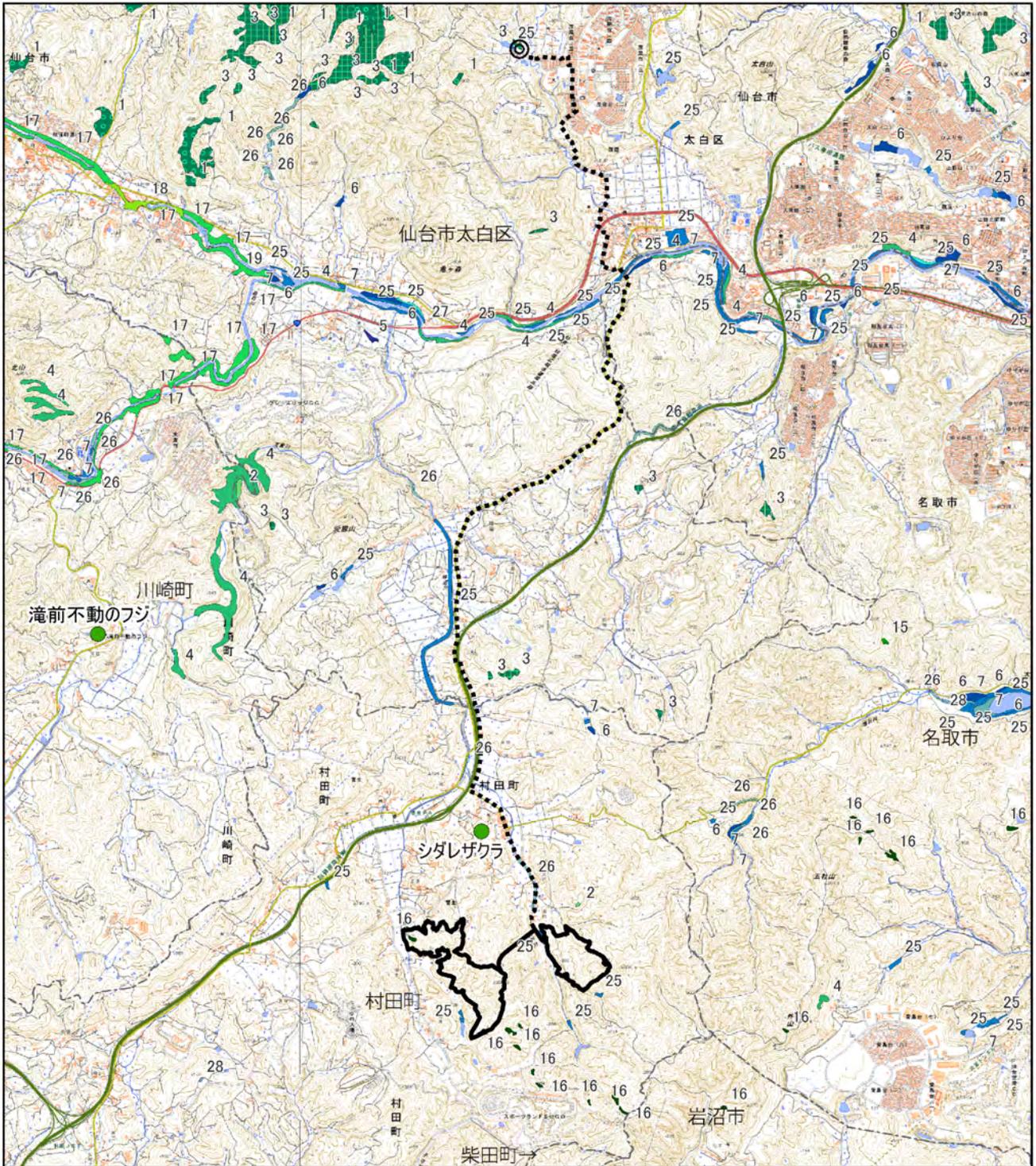
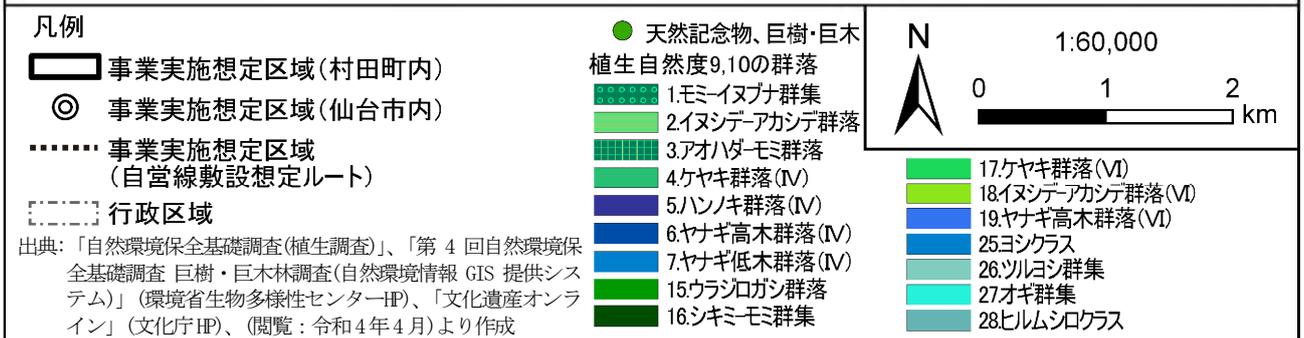


図 3.1-24(1) 植物群落及び巨樹・巨木位置図



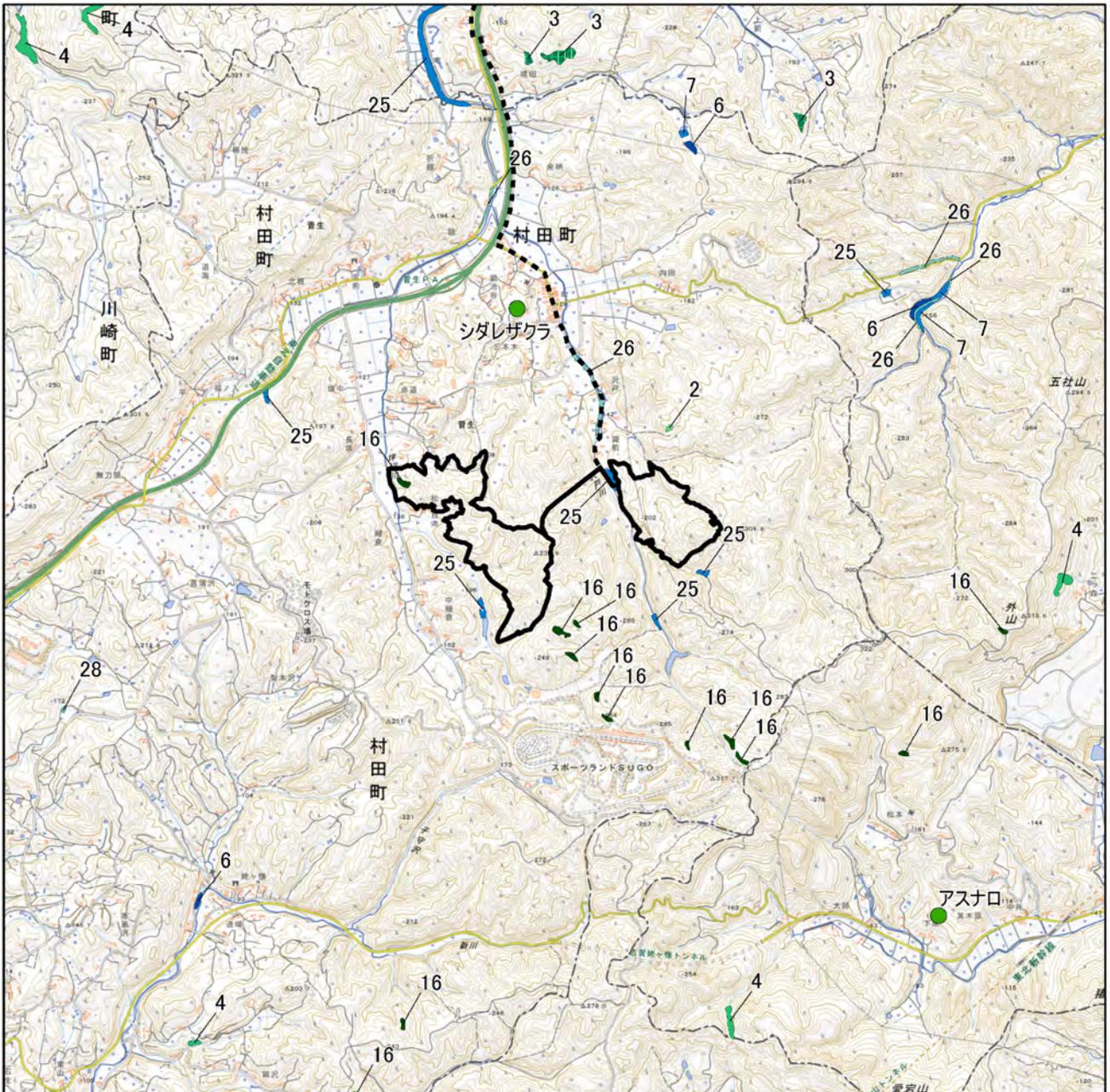


図 3.1-24(2) 植物群落及び巨樹・巨木位置図 (村田町内)

凡例

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 事業実施想定区域(村田町内) 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート) 行政区域 | <ul style="list-style-type: none"> ● 天然記念物、巨樹・巨木 植生自然度9,10の群落 2.イヌシデーアカシデ群落 3.アオハダ・モミ群落 4.ケヤキ群落(IV) 6.ヤナギ高木群落(IV) 7.ヤナギ低木群落(IV) 16.シキミーモミ群集 25.ヨシクラス 26.ツルヨシ群集 28.ヒルムシロクラス |
|--|--|



1:40,000

0 0.75 1.5 km

出典: 「自然環境保全基礎調査(植生調査)」、「第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査(自然環境情報 GIS 提供システム)」(環境省生物多様性センターHP)、「文化遺産オンライン」(文化庁HP)、(閲覧: 令和4年4月)より作成

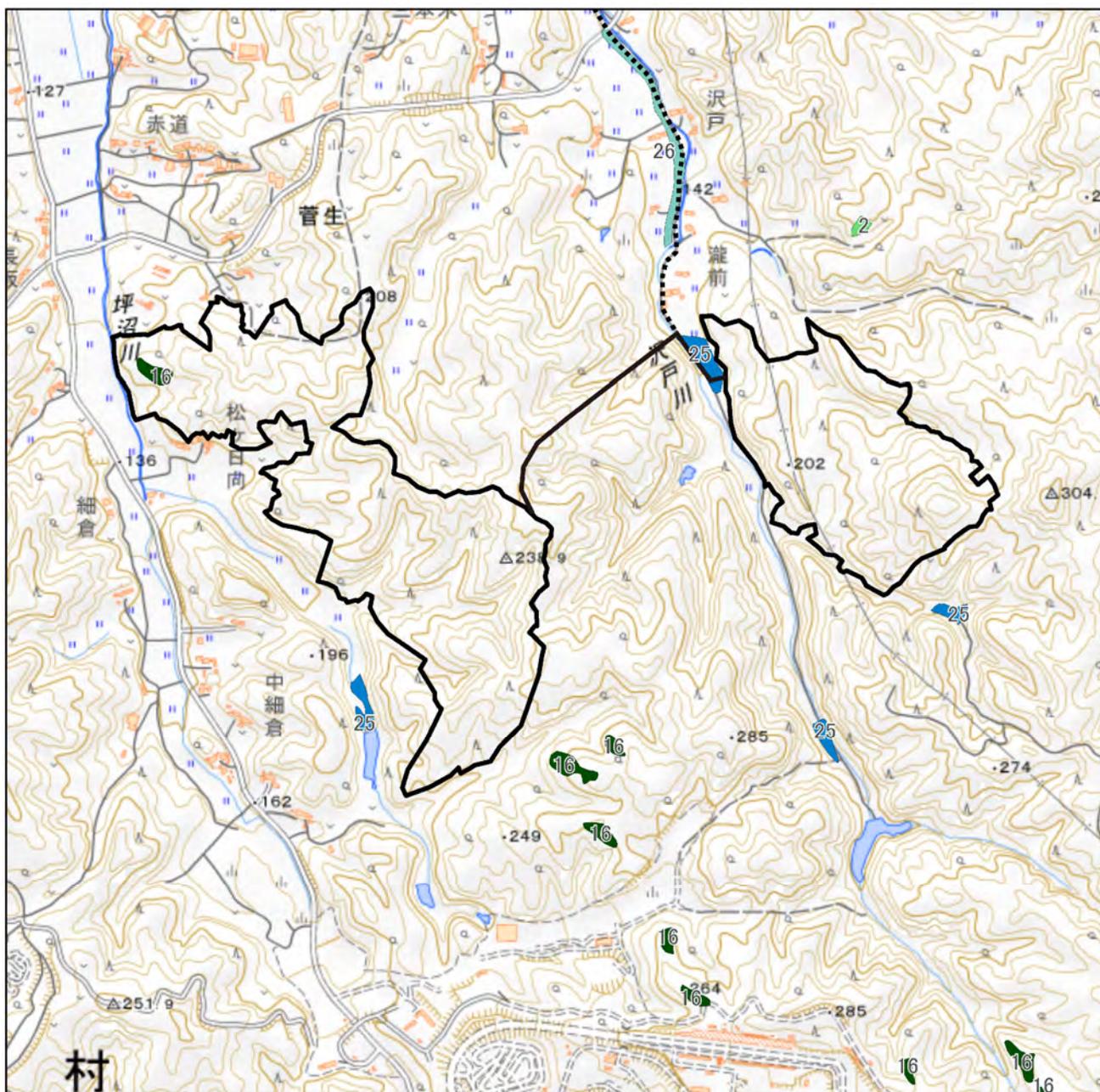


図 3.1-24 (3) 植物群落位置図 (拡大図)

凡例

- 事業実施想定区域(村田町内)
- 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)

植生自然度9,10の群落

- 2.イヌシデーアカシデ群落
- 16.シキミーモミ群集
- 25.ヨシクラス
- 26.ツルヨシ群集



1:15,000

0 0.25 0.5 km

出典:「自然環境保全基礎調査(植生調査)」、「第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査(自然環境情報 GIS 提供システム)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧:令和4年4月)より作成

(4) 注目すべき生育地

事業実施想定区域及びその周囲を対象に、注目すべき生育地について表 3.1-45 に示す法令や規制等の選定基準に基づき抽出した。

表 3.1-45 注目すべき生育地の選定基準

分類番号	名称	カテゴリ
①	『文化財保護法』 (昭和 25 年 法律第 214 号) 『宮城県文化財保護条例』 (昭和 50 年 宮城県条例第 49 号) 『村田町文化財保護条例』 (平成元年 村田町条例第 14 号) 『仙台市文化財保護条例』 (昭和 37 年 仙台市条例第 27 号)	特天：特別天然記念物 国天：天然記念物 県天：県指定天然記念物 町天：町指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)』 (平成 4 年 法律第 75 号) 『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令』 (平成 5 年 政令第 17 号)	生息：生息地等保護区
③	『生物多様性の観点から重要度の高い湿地』 (環境省 HP、閲覧：令和 4 年 4 月)に基づく重要度の高い湿地	基準 1：湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・砂浜・マングローブ湿地、藻場、サンゴ 礁等の生態系のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合 基準 2：希少種、固有種等が生育・生息している場合 基準 3：多様な生物相を有している場合（ただし、外来種を除く） 基準 4：特定の種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生育・生息する場合 基準 5：生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、繁殖場等）である場合
④	『生物多様性保全の鍵になる重要な地域(KBA)』 (コンサベーション・インターナショナル・ジャパン HP、閲覧：令和 4 年 4 月)	危機性：IUCN のレッドリストの地域絶滅危惧種（CR、EN、VU）に分類された種が生息／生育する 非代替性： a) 限られた範囲にのみ分布している種（RR） b) 広い範囲に分布するが特定の場所に集中している種 c) 世界的にみて個体が一時的に集中する重要な場所 d) 世界的にみて顕著な個体の繁殖地 e) バイオリージョンに限定される種群
⑤	『自然環境保全法』 (昭和 47 年 法律第 85 号) 『県立自然公園条例』 (昭和 34 年 宮城県条例第 20 号) 『宮城県自然環境保全条例』 (昭和 47 年 宮城県条例第 25 号)	県自然公園 自然環境保全地域 緑地環境保全地域
⑥	『平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 報告書』 (仙台市 HP、閲覧：令和 4 年 4 月)	植物生育地として重要な地域

事業実施想定区域及びその周囲における注目すべき生育地を表 3.1-46、図 3.1-25 に示す。事業実施想定区域及びその周囲には県立自然公園二口峡谷、樽水・五社山県自然環境保全地域、太白山県自然環境保全地域、高館・千貫山緑地環境保全地域、蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域が存在する。また、植物生育地として重要な地域は、高館・千貫山及び坪沼地域の里地・里山植生等が存在する。

表 3.1-46 注目すべき生育地

名称及び種名等	カテゴリ	選定基準
県立自然公園二口溪谷	県立自然公園	『県立自然公園条例』 (昭和 34 年 宮城県条例第 20 号)
樽水・五社山県自然環境保全地域	自然環境保全地域	『宮城県自然環境保全条例』 (昭和 47 年 宮城県条例第 25 号)
太白山県自然環境保全地域		
高館・千貫山緑地環境保全地域	緑地環境保全地域	『宮城県自然環境保全条例』 (昭和 47 年 宮城県条例第 25 号)
蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域		
太白山のスギ林	植物生育地として重要な地域	『平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 報告書』 (仙台市 HP、閲覧：令和 4 年 4 月)
鈎取山学術参考保護林周辺の林		
下の沢等の沢辺植物群落		
太白山のコナラ・ケヤキ林		
北赤石中の森と周辺の植生		
坪沼のオオバアサガラ林		
太白・羽黒台の緑地		
坪沼地域の里地・里山植生		
奥羽山脈～青葉山丘陵地域の植生		
高館・千貫山		
秋保地区の里山		

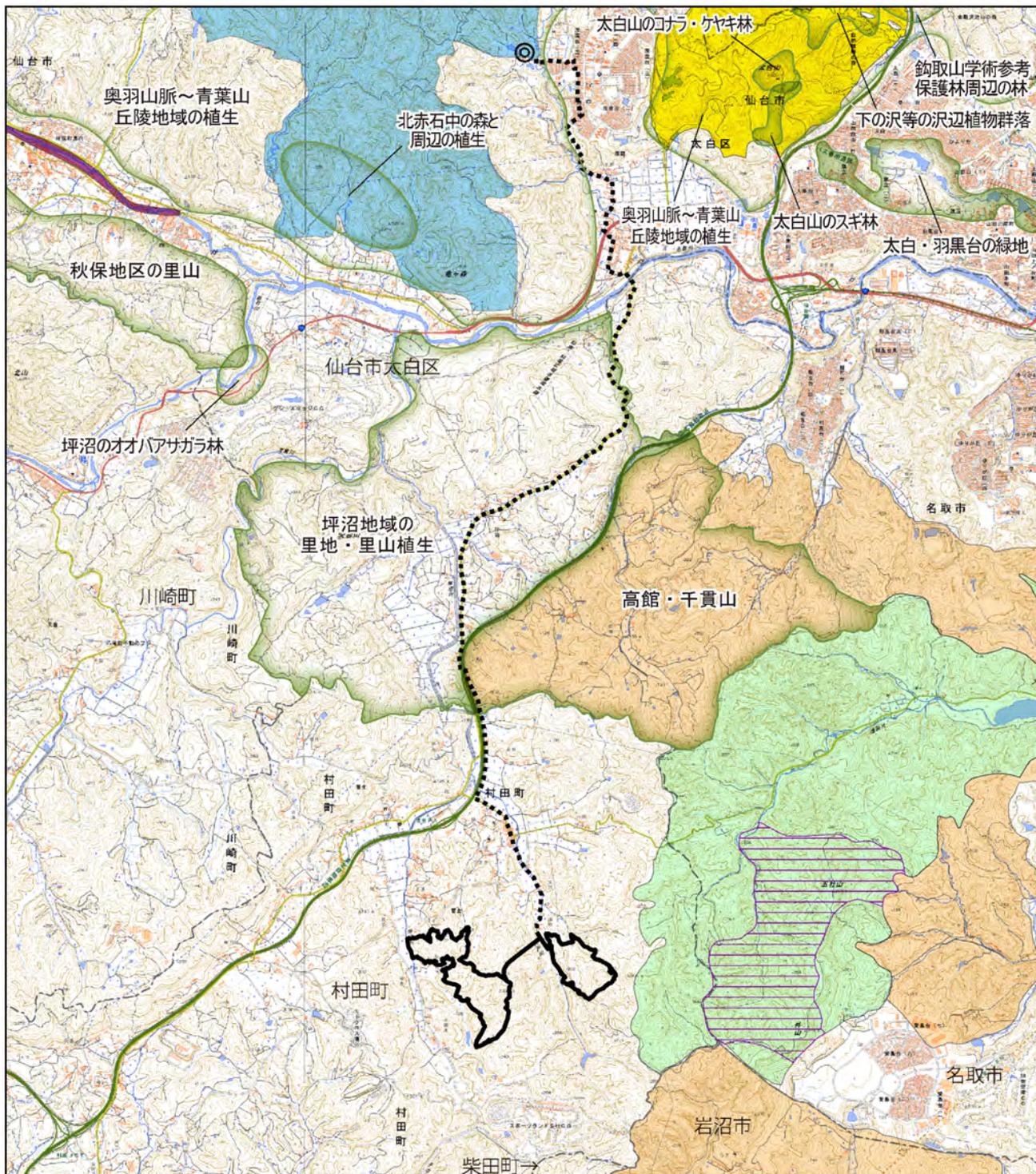


図 3.1-25(1) 注目すべき生育地

凡例

事業実施想定区域(村田町内)

事業実施想定区域(仙台市内)

事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)

行政区域

県立自然公園二口峡谷

梅水・五社山県自然環境保全地域
(普通地区)

梅水・五社山県自然環境保全地域
(特別地区)

太白山県自然環境保全地域(普通地区)

高館・千貫山緑地環境保全地域

葦山・斎勝沼緑地環境保全地域



1:60,000

0 1 2 km

植物生育地として重要な地域(仙台市)

出典:「自然公園等区域閲覧サービス」、「令和3年度鳥獣保護区等位置図」(宮城県HP)、「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市HP)、(閲覧:令和4年4月)より作成

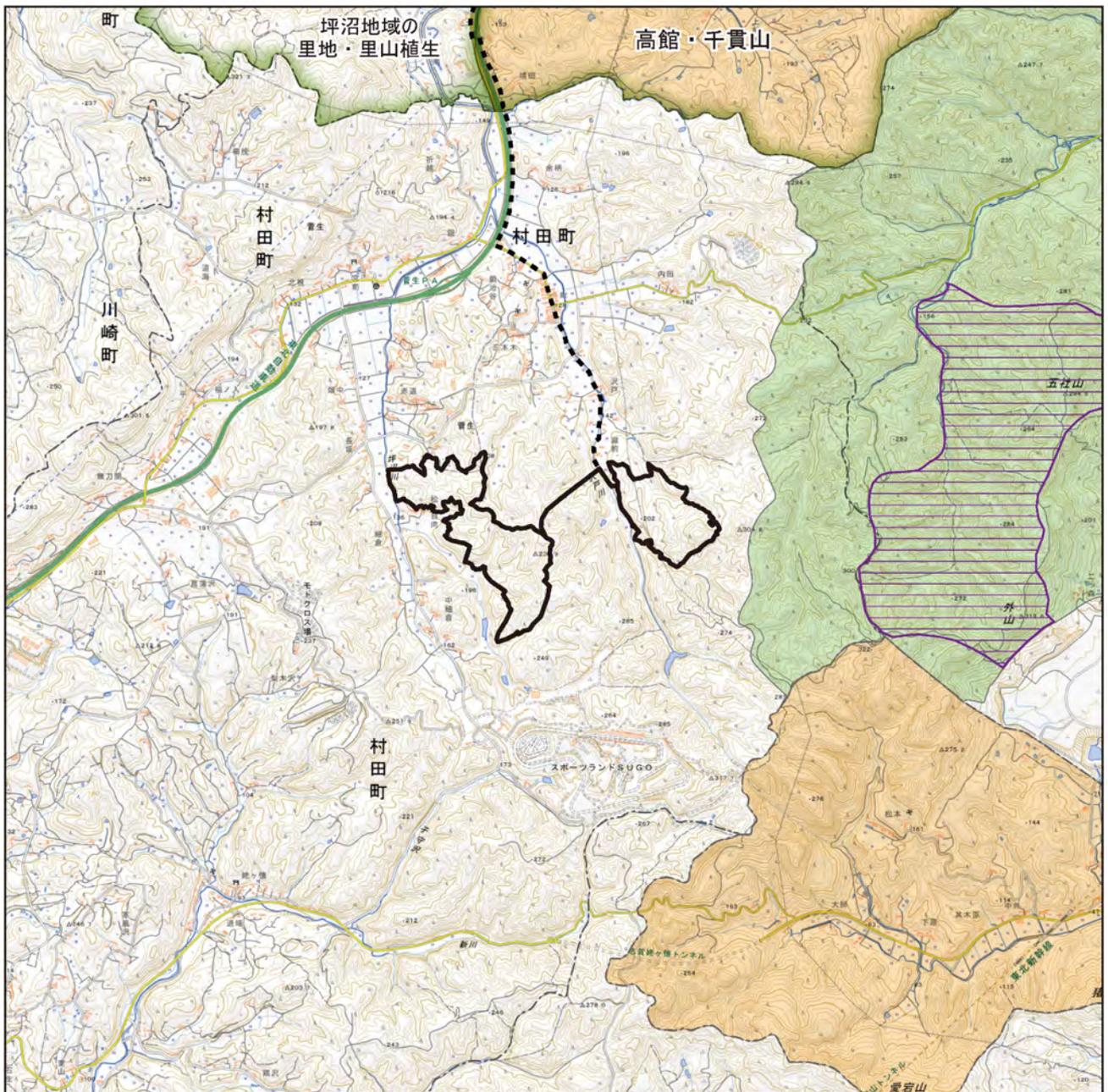


図 3.1-25(2) 注目すべき生育地 (村田町内)

凡例

■ 事業実施想定区域(村田町内)

----- 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)

----- 行政区域

■ 樽水・五社山自然環境保全地域 (普通地区)

■ 樽水・五社山自然環境保全地域 (特別地区)

■ 高館・千貫山緑地環境保全地域

■ 植物生育地として重要な地域(仙台市)



1:40,000

0 0.75 1.5 km

出典：「自然公園等区域閲覧サービス」、「令和3年度鳥獣保護区等位置図」(宮城県HP)、「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市HP)、(閲覧：令和4年4月)より作成

3 生態系の状況

事業実施想定区域及びその周囲における生態系の状況を把握するに当たり、収集した文献その他の資料を表 3.1-47 に示す。

表 3.1-47 文献その他の資料一覧（生態系）

項目	文献番号	資料名	調査項目	発行
の生態系概況		「3.1.5 1 動物の生息状況」、「3.1.5 2 植物の生育状況」の種及び植生に関する文献その他資料とした。		
重要な自然環境のまとめりの場	1	『文化財保護法』（昭和 25 年 法律第 214 号）	繁殖地、重要な植物群落、自生地等	文化庁
	2	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）』（平成 4 年 法律第 75 号）	希少野生動植物	環境省
	3	『自然環境保全条例』（昭和 47 年 宮城県条例第 25 号）	県自然環境保全地域	宮城県
	4	『県立自然公園条例』（昭和 34 年 宮城県条例第 20 号）	自然公園特別地域内指定植物	宮城県
	5	『宮城県文化財保護条例』（昭和 61 年 宮城県条例第 21 号）	天然記念物	宮城県
	6	『村田町文化財保護条例』（平成元年 村田町条例第 14 号）	天然記念物	村田町
	7	『仙台市文化財保護条例』（昭和 37 年 仙台市条例第 27 号）	天然記念物	仙台市
	8	『第 2 回自然環境保全基礎調査 植生調査（1/50,000 縮尺）（自然環境情報 GIS 提供システム）』（昭和 54 年）	自然草原、自然林	環境省
	9	『第 4 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査（自然環境情報 GIS 提供システム）』（平成 3 年）	巨樹・巨木	環境省
	10	『第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査（自然環境情報 GIS 提供システム）』（平成 12 年）	特定植物群落	環境省
	11	『希少猛禽類調査（イヌワシ・クマタカ）の結果について』（平成 16 年）	イヌワシ生息地、クマタカ生息地	環境省
	12	『要注意鳥獣（クマ等）生息分布調査』（平成 30 年）	ツキノワグマ生息地、カモシカ生息地	環境省
	13	『ガンカモ類の生息調査』（平成 17 年）	ガンカモ類生息地	環境省
	14	『モニタリングサイト 1000 ガンカモ類調査』（平成 19 年）	ガンカモ類生息地	環境省
	15	『都市緑地法』（昭和 48 年 法律第 72 号）	特別緑地保全地区	環境省
	16	『森林法』（昭和 26 年 法律第 249 号）	保安林	環境省
	17	『宮城県鳥獣保護区等位置図』（令和 3 年）	鳥獣保護区、特別保護地区	宮城県
	18	『自然公園等区域閲覧サービス』（平成 30 年）	自然公園、県自然環境保全地域、県緑地環境保全地域	宮城県
	19	『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016』（平成 28 年）	植物群落	宮城県
	20	『平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 報告書』（平成 29 年）	動物生息地として重要な地域、植物生育地として重要な地域	仙台市

1) 生態系の状況

既存資料の植生区分をもとに自然環境の類型区分を実施し、地域を特徴づける生態系を整理した。地域を特徴づける生態系と植生区分の概要を表 3.1-48 及び図 3.1-26 に示す。

事業実施想定区域及びその周囲は樹林地、草原、畑地・造成地等、水辺（河川、ため池等含む）に区分され、村田町内の事業実施想定区域は樹林地が大半を占める。

また、事業実施想定区域及びその周囲の生態系の状況として、既存資料によって得られた生息・生育種に関する情報から代表的な生物種間の関係性を整理した食物連鎖の概要を表 3.1-49 及び図 3.1-27 に示す。

なお、環境類型区分への重要な動植物の振分けに当たっては、植生自然度を参考に以下のとおり分類した。

- ・ 樹林地 : 自然林、二次林（自然林に近いもの）、二次林、植林地
- ・ 草原 : 自然草原、牧草地、二次草原等
- ・ 田、畑地、造成地等 : 樹園地、水田・畑、市街地、緑の多い住宅地等
- ・ 水辺 : 開放水域、高層湿原、低層湿原

表 3.1-48 地域を特徴づける生態系と植生区分の概要

地域を特徴づける生態系 (環境類型区分)	植生区分
樹林地	モミ-イヌブナ群集、イヌシデ-アカシデ群落、アオハダ-モミ群落、ケヤキ群落、ハンノキ群集、ヤナギ高木群落、ヤナギ低木群落、コナラ群落、アカシデ-イヌシデ群落、オニグルミ群落、ケヤキ二次林、アカマツ群落、ススキ群団、ウラジログシ群落、シキミ-モミ群集、クリ-コナラ群集、アズマネザサ群落、クズ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ植林、ニセアカシア群落
草原	伐採跡地群落、放棄畑雑草群落、牧草地、ゴルフ場・芝地
田、畑地、造成地等	果樹園、畑地雑草群落、水田雑草群落、市街地、緑の多い住宅地、造成地等
水辺	開放水域、高層湿原、低層湿原

出典：「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和4年4月)より作成

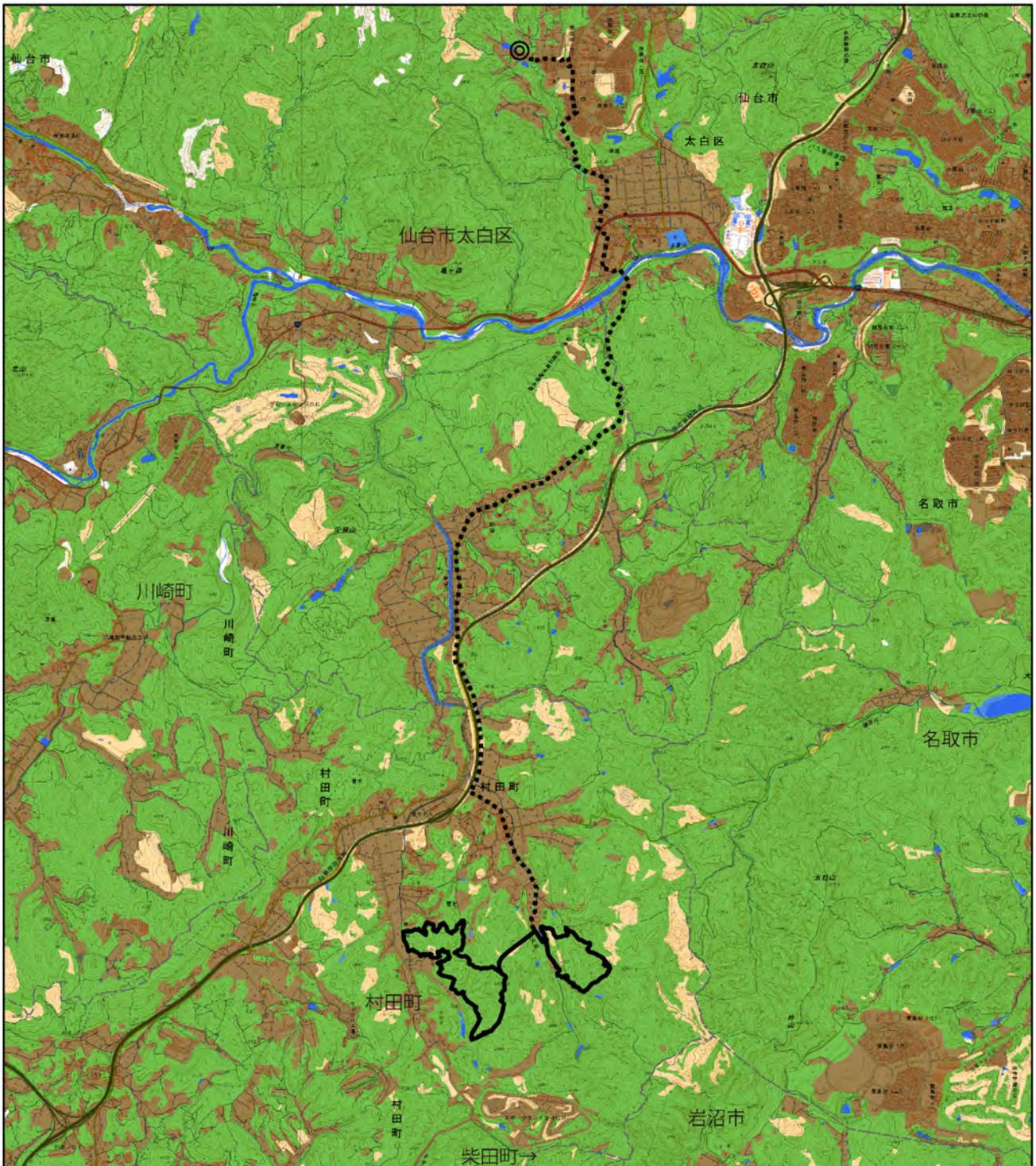


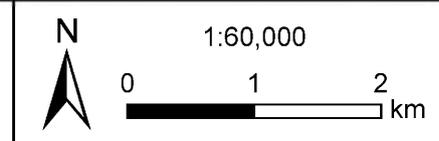
図 3.1-26(1) 環境類型区分図

凡例

- 事業実施想定区域(村田町内)
- 事業実施想定区域(仙台市内)
- 事業実施想定区域(自営線敷設想定ルート)
- 行政区域

環境類型区分

- 樹林地
- 草原
- 田、畑地、造成地等
- 水辺



出典：「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和4年4月)より作成

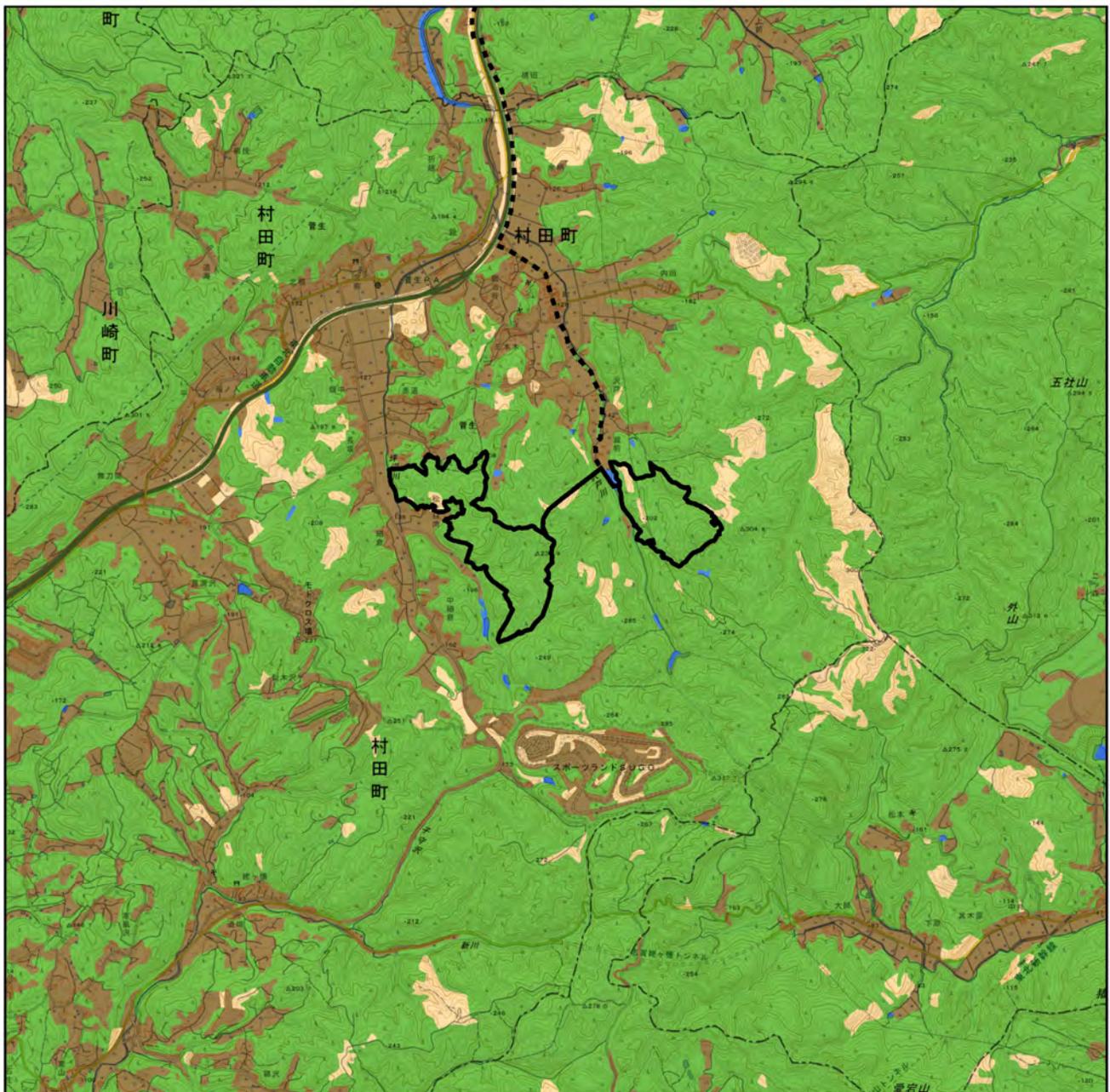
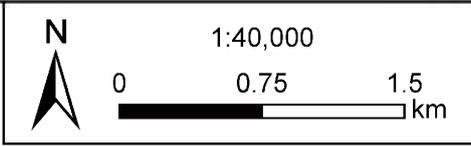


図 3.1-26(2) 環境類型区分図 (村田町内)

- | | |
|---|--|
| <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業実施想定区域(村田町内) 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート) 行政区 | <p>環境類型区分</p> <ul style="list-style-type: none"> 樹林地 草原 田、畑地、造成地等 水辺 |
|---|--|



出典：「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和4年4月)より作成

表 3.1-49 事業実施想定区域及びその周囲の生態系の概況

分類	環境類型区分			
	樹林地	草原	田、畑地、造成地等	水辺 (河川、ため池等を含む)
哺乳類	ヒメホオヒゲコウモリ ウサギコウモリ テングコウモリ テン タヌキ キツネ イタチ類 ツキノワグマ イノシシ ニホンジカ カモシカ	タヌキ キツネ イタチ類	ネズミ類 イタチ タヌキ	コウモリ類
鳥類	オオタカ サシバ サンコウチョウ アカハラ ノスリ ヒヨドリ ヤマガラ シジュウカラ エナガ オオルリ ルリビタキ フクロウ類	スズメ ヒヨドリ カワラヒワ ホオジロ ムクドリ トビ ハシブトガラス	ヨシゴイ チゴモズ アオサギ コサギ カルガモ ハクセキレイ	カイツブリ アオサギ カワガラス カワセミ イワツバメ
爬虫類	ジムグリ ヒバカリ シロマダラ	ニホントカゲ ニホンカナヘビ アオダイショウ ニホンマムシ	ニホントカゲ ニホンカナヘビ シマヘビ ヤマカガシ	ニホンカナヘビ ヤマカガシ
両生類	トウホクサンショウウオ クロサンショウウオ アズマヒキガエル タゴガエル ニホンアカガエル ヤマアカガエル カジカガエル	アマガエル アズマヒキガエル	アカハライモリ アズマヒキガエル アマガエル トウキョウダルマガエル	アマガエル シュレーゲルアオガエル カジカガエル
昆虫類	ウラナミアカシジミ ヒメギフチョウ ヒカゲチョウ ノコギリクワガタ マガタマハンミョウ ヒグラシ	ウスバキトンボ ベニシジミ キタテハ モンキチョウ ウラギンスジヒョウモン カスミササキ	ギンヤンマ モートンイトトンボ ゲンゴロウ ガムシ オオルリハムシ セアカオサムシ	ハグロトンボ ミヤマカワトンボ ゲンジボタル コオイムシ タガメ カゲロウ類
魚類	—	—	ドジョウ類 メダカ類	ギンブナ ウグイ ワカサギ ヨシノボリ類 ドジョウ類
植物	アカマツ シュンラン アズマネザサ ケヤキ ヤマグワ コナラ シロヤナギ タチツボスミレ トチノキ ヤマツツジ ヘクソカズラ	ワラビ コヌカグサ シナダレスズメガヤ オギ ススキ ツルヨシ メドハギ ノイバラ クマイチゴ ゲンノショウコ ヨモギ	カラスビシャク ウキクサ ヘラオモダカ ホタルイ オランダミミナグサ スベリヒユ アゼナ ミゾカクシ トキンソウ	サンショウモ ショウブ ミズオオバコ ナガエミクリ チガヤ ツルヨシ ヒシ ノダイオウ

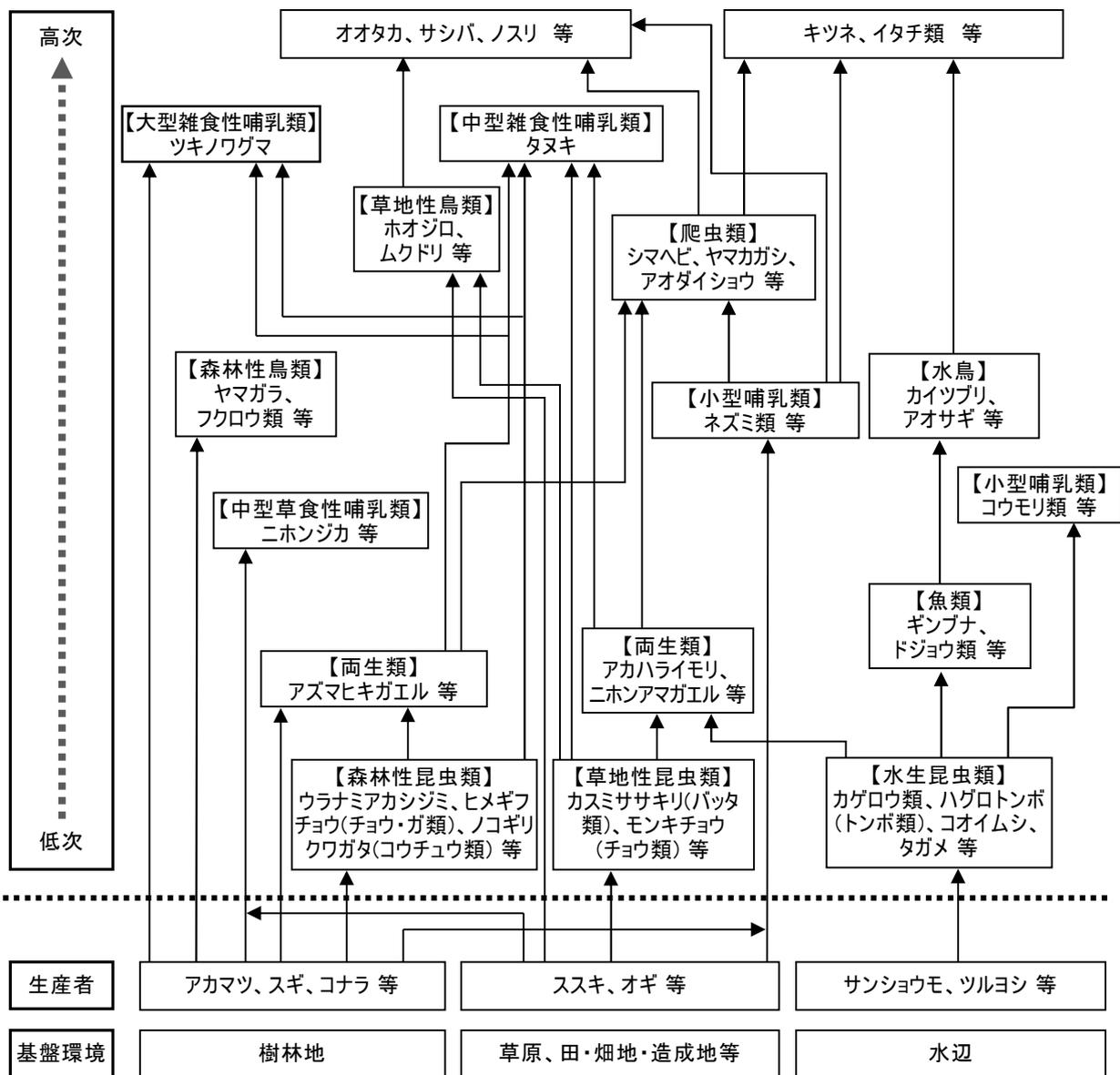


図 3.1-27 事業実施想定区域及びその周辺の食物連鎖の概要

2) 重要な自然環境のまとまりの場

重要な自然環境のまとまりの場は、表 3.1-47 に示した生態系の文献その他の資料より抽出し、表 3.1-50 に示す選定基準に基づいて行った。事業実施想定区域及びその周囲における重要な自然環境のまとまりの場を表 3.1-51 及び図 3.1-28 に示す。

事業実施想定区域及びその周囲は、天然記念物であるイヌワシ、カモシカ及び渡り鳥の生息地とされている。また、植生自然度 9, 10 の植物群落、天然記念物のシダレザクラ等が点在し、事業実施想定区域及びその周囲には県立自然公園二口峡谷、樽水・五社山県自然環境保全地域、太白山県自然環境保全地域、高館・千貫山緑地環境保全地域、蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域、菅生鳥獣保護区、愛宕鳥獣保護区が存在する。また、動物生息地として重要な地域及び植物生育地として重要な地域は、高館・千貫山及び坪沼地区等が存在する。なお、村田町内の事業実施想定区域には菅生鳥獣保護区が存在している。

表 3.1-50 重要な自然環境のまとまりの場の選定基準

文献番号※1	資料名	カテゴリ
1, 5, 6, 7	『文化財保護法』(昭和 25 年 法律第 214 号) 『宮城県文化財保護条例』(昭和 50 年 宮城県条例第 49 号) 『村田町文化財保護条例』(平成元年 村田町条例第 14 号) 『仙台市文化財保護条例』(昭和 37 年 仙台市条例第 27 号)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別天然記念物 ・天然記念物 ・県指定天然記念物 ・町指定天然記念物 ・市指定天然記念物
2	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)』(平成 4 年 法律第 75 号)	<ul style="list-style-type: none"> ・特定国内希少野生動植物種 ・国内希少野生動植物 ・国際希少野生動植物
8	『第 2 回自然環境保全基礎調査 植生調査(1/50,000 縮尺)(自然環境情報 GIS 提供システム)』(昭和 54 年環境省)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然草原・自然林
9	『第 4 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査(自然環境情報 GIS 提供システム)』(平成 3 年環境省)	<ul style="list-style-type: none"> ・巨樹・巨木
10	『第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査(自然環境情報 GIS 提供システム)』(平成 12 年環境省)	<ul style="list-style-type: none"> ・特定植物群落
11	『希少猛禽類調査(イヌワシ・クマタカ)の結果について』(平成 16 年 環境省)	<ul style="list-style-type: none"> ・イヌワシ生息地 ・クマタカ生息地
12	『要注意鳥獣(クマ等)生息分布調査』(平成 30 年 環境省)	<ul style="list-style-type: none"> ・ツキノワグマ生息地 ・カモシカ生息地
13	『ガンカモ類の生息調査』(平成 17 年 環境省)	<ul style="list-style-type: none"> ・ガンカモ類生息地
14	『モニタリングサイト 1000 ガンカモ類調査』(平成 19 年 環境省)	<ul style="list-style-type: none"> ・ガンカモ類生息地
16	『森林法』(昭和 26 年 法律第 249 号)	<ul style="list-style-type: none"> ・保安林
17	『宮城県鳥獣保護区等位置図』(令和 3 年 宮城県)	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣保護区
18	『自然公園等区域閲覧サービス』(平成 30 年 宮城県)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全地域 ・緑地環境保全地域
20	『平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 報告書』(平成 29 年 仙台市)	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の生息地として重要な地域 ・植物の生育地として重要な地域

※1. 文献番号は表 3.1-47 に対応する。

表 3.1-51 事業実施想定区域及びその周囲の重要な自然環境のまとまりの場

文献番号 ^{※1}	重要な自然環境	選定基準 ^{※1}
4	アスナロ スギ	・巨樹・巨木
4, 5	植生自然度 10: 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等 植生自然度 9: ブナクラス域自然植生、ヤブツ バキクラス域自然植生	・自然草原・自然林
1	シダレザクラ(村田町指定天然記念物) 滝前不動のフジ(天然記念物)	・町指定天然記念物 ・天然記念物
1, 2, 8, 9	イヌワシ生息地 (天然記念物・国内希少野生動植物)	・天然記念物 ・国内希少野生動植物 ・イヌワシ生息地
1, 2, 10, 11	ツキノワグマ生息地 カモシカ生息地 (特別天然記念物・国内希少野生動植物)	・特別天然記念物 ・国内希少野生動植物 ・ツキノワグマ生息地 ・カモシカ生息地
1, 2, 13, 14	渡り鳥生息地 マガン(天然記念物) コハクチョウ	・ガンカモ類生息地
16	水源かん養保安林	・保安林
17	菅生鳥獣保護区、愛宕山鳥獣保護区、 門野山鳥獣保護区、釜房鳥獣保護区、 仙台鳥獣保護区	・鳥獣保護区
18	県立自然公園二口溪谷 樽水・五社山県自然環境保全地域(普通地区) 樽水・五社山県自然環境保全地域(特別地区) 太白山県自然環境保全地域(普通地区) 高館・千貫山緑地環境保全地域 蕃山・斎藤沼緑地環境保全地域	・自然公園 ・自然環境保全地域 ・緑地環境保全地域
20	太白山のスギ林、鈎取山学術参考保護林周辺の 林、下の沢等の沢辺植物群落、太白山のコナラ・ ケヤキ林、北赤石中の森と周辺の植生、坪沼のオ オバアサガラ林、太白・羽黒台の緑地、沼地域の 里地・里山植生、奥羽山脈～青葉山丘陵地域の植 生、高館・千貫山、秋保地区の里山	・植物生育地として重要な地域
20	太白山・佐保山・鈎取国有林一帯、太白山一帯、 奥羽山脈から青葉山丘陵地域への緑の回廊、高 館・千貫山、坪沼地区、秋保地区、名取川(上～ 中流域)	・動物生息地として重要な地域

※1. 文献番号及び選定基準は表 3.1-47 に対応する。

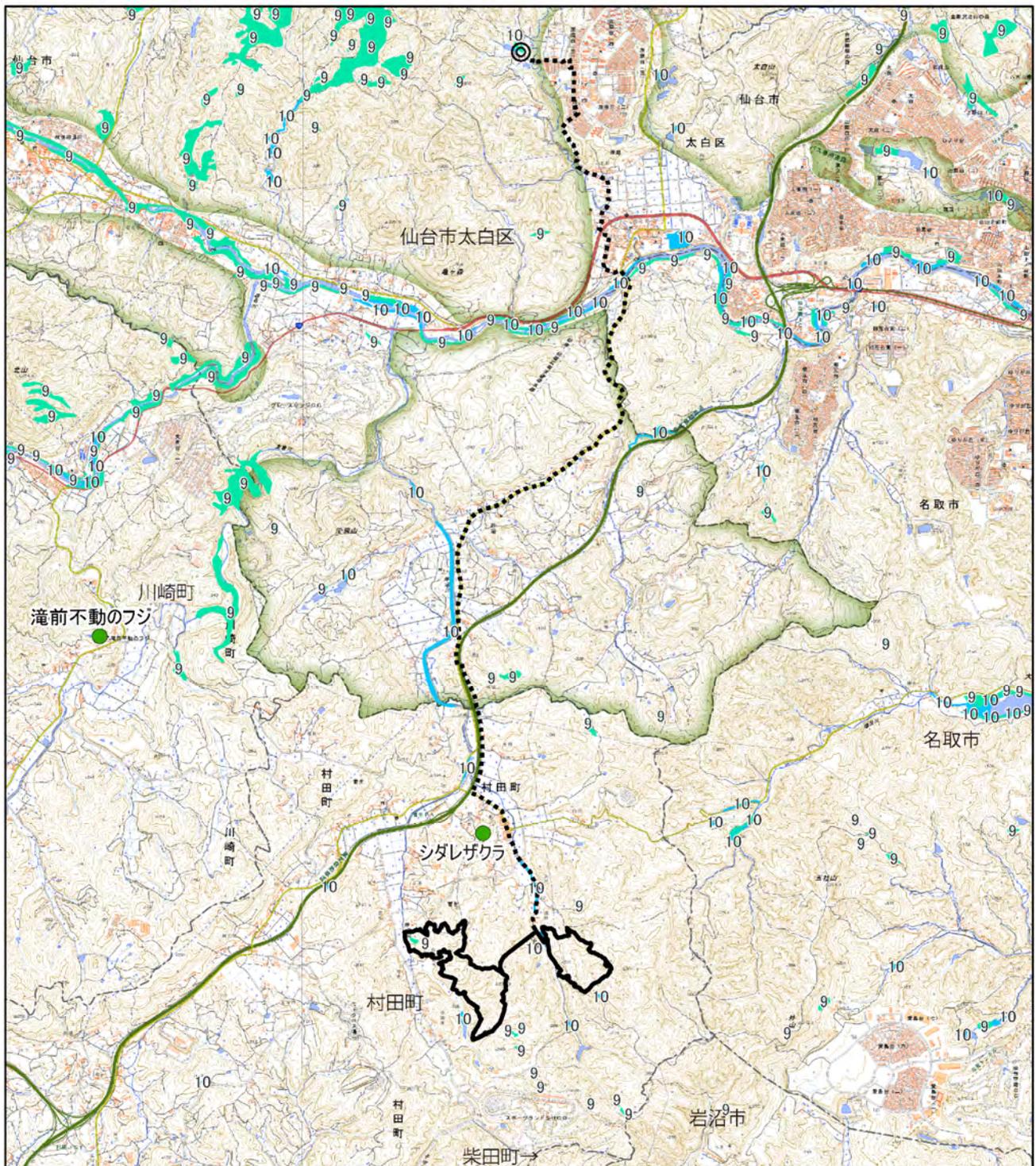


図 3.1-28(1) 植物生育地に関する重要な自然環境のまとまりの場の状況

凡例

■ 事業実施想定区域 (村田町内)

◎ 事業実施想定区域 (仙台市内)

⋯⋯ 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)

⋯⋯ 行政区域

● 天然記念物、巨樹・巨木

植生自然度

■ 9

■ 10

■ 植物生育地として重要な地域 (仙台市)



1:60,000

0 1 2 km

出典：「自然環境保全基礎調査(植生調査)」、「第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査(自然環境情報 GIS 提供システム)」(環境省生物多様性センターHP)、「文化遺産オンライン」(文化庁 HP)、「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 報告書」(仙台市 HP)、(閲覧：令和4年4月)より作成

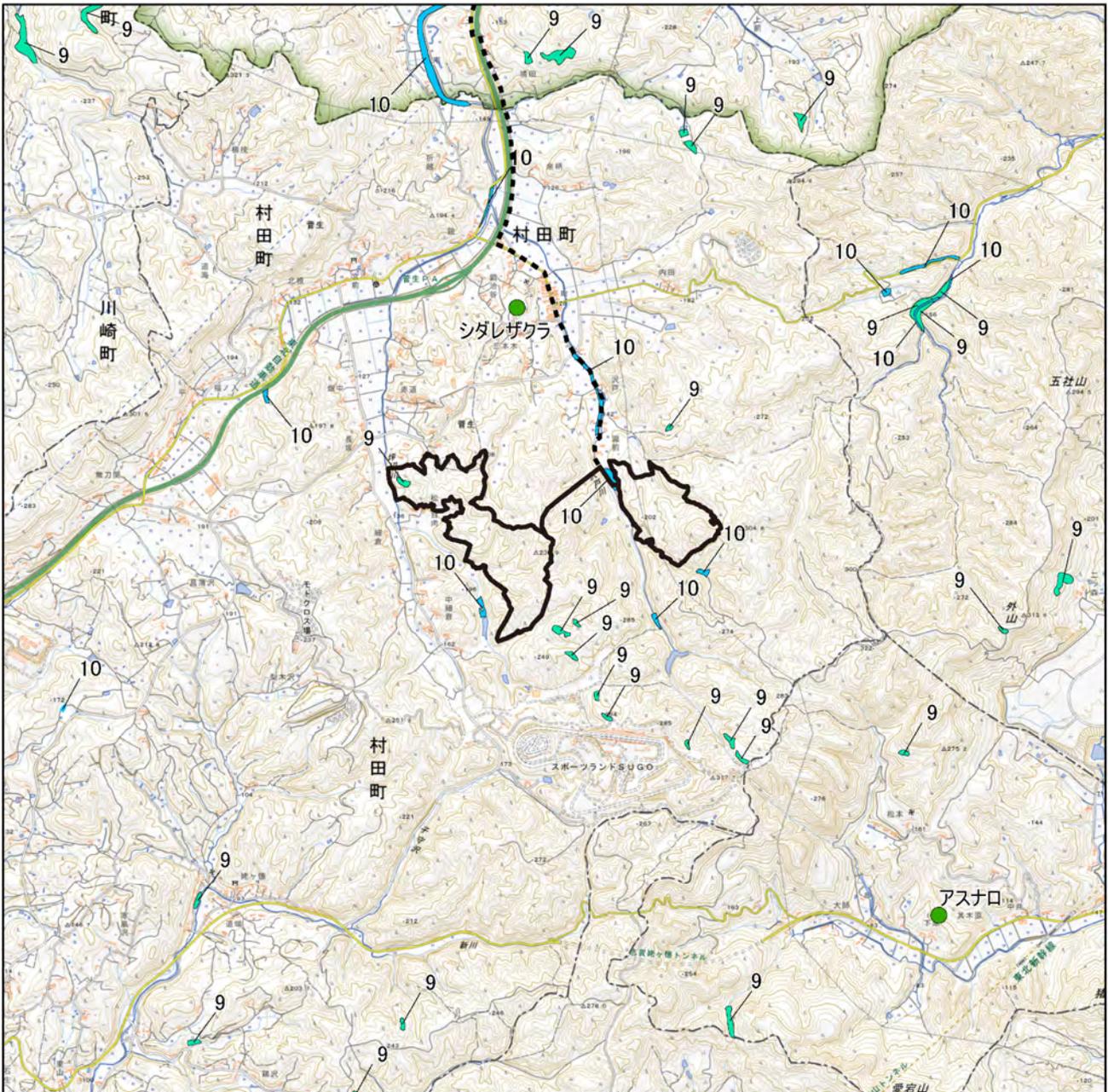


図 3.1-28 (2) 植物生育地に関する重要な自然環境のまとまりの場の状況 (村田町内)

<p>凡例</p> <p> 事業実施想定区域(村田町内) </p> <p> 事業実施想定区域 (自営線敷設想定ルート) </p> <p> 行政区域 </p>		<p>● 天然記念物、巨樹・巨木</p>	<p>N</p> <p>1:40,000</p> <p>0 0.75 1.5 km</p>
<p>植生自然度</p> <p> 9 </p> <p> 10 </p>		<p> 植物生育地として重要な地域(仙台市) </p>	

出典：「自然環境保全基礎調査(植生調査)」、「第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査(自然環境情報 GIS 提供システム)」(環境省生物多様性センターHP)、「文化遺産オンライン」(文化庁 HP)、「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 報告書」(仙台市 HP)、(閲覧：令和4年4月)より作成

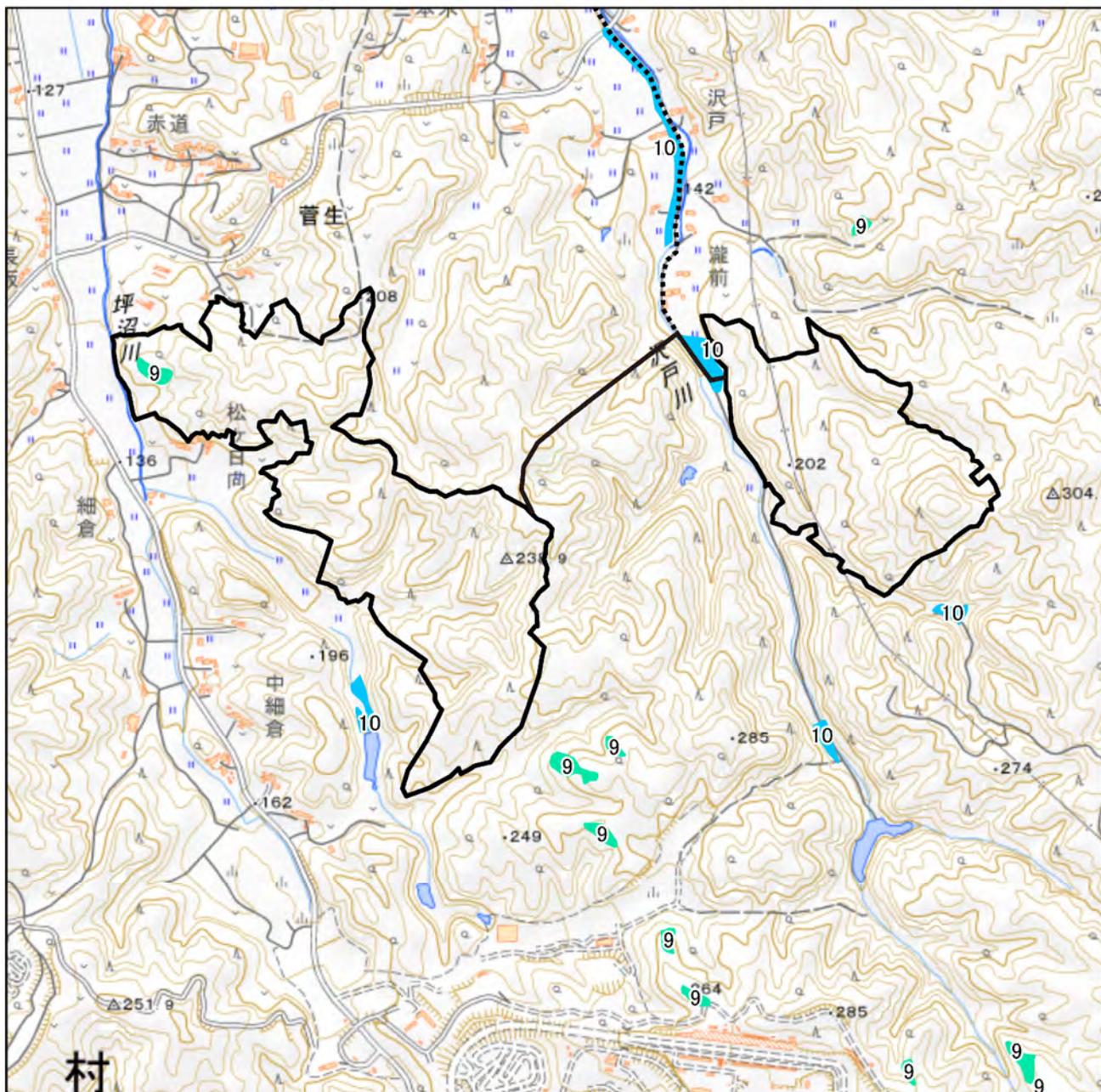


図 3.1-28 (3) 植物生育地に関する重要な自然環境のまとまりの場の状況 (拡大図)

凡例

- 事業実施想定区域(村田町内)
- 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)

植生自然度

- 9
- 10



1:15,000

0 0.25 0.5 km

出典:「自然環境保全基礎調査(植生調査)」、「第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査(自然環境情報 GIS 提供システム)」(環境省生物多様性センターHP、閲覧:令和4年4月)より作成

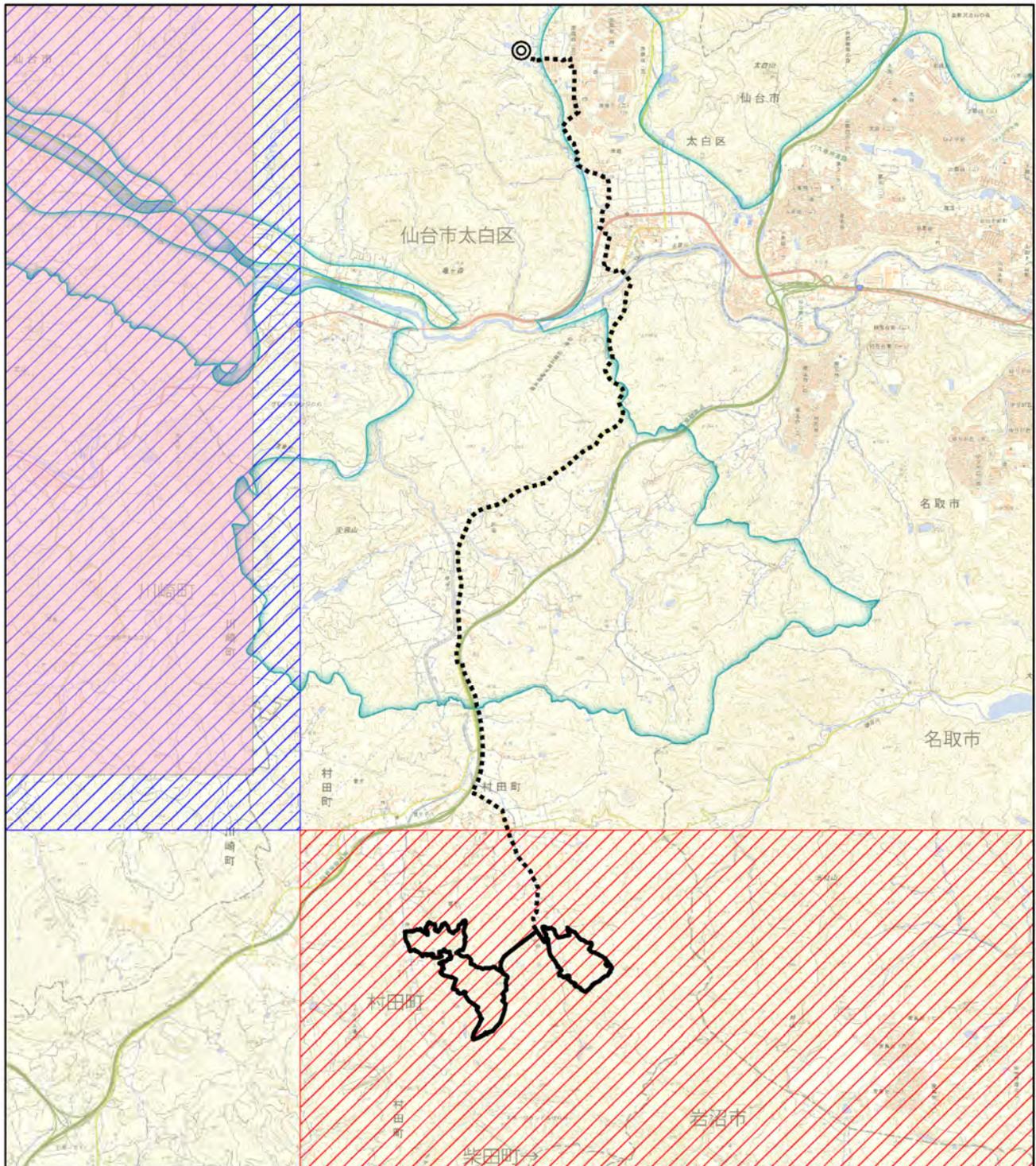


図 3.1-28(4) 動物生息地に関する重要な自然環境のまとまりの場の状況

凡例

■ 事業実施想定区域(村田町内)

◎ 事業実施想定区域(仙台市内)

..... 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)

□ 行政区域

■ イヌワシ生息地

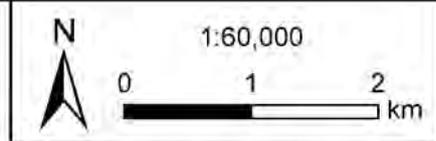
■ ツキノワグマ、カモシカ生息地

■ 渡り鳥生息地

■ マガン

■ コハクチョウ

■ 動物生息地として重要な地域(仙台市)



出典: 「希少猛禽類調査(イヌワシ・クマタカ)の結果について」、「要注意鳥獣(クマ等)生息分布調査」(環境省 HP)、「ガンカモ類の生息調査」、「モニタリングサイト 1000 ガンカモ類調査」(生物多様性センターHP)、「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 報告書」(仙台市 HP)、(閲覧: 令和 4 年 4 月)より作成

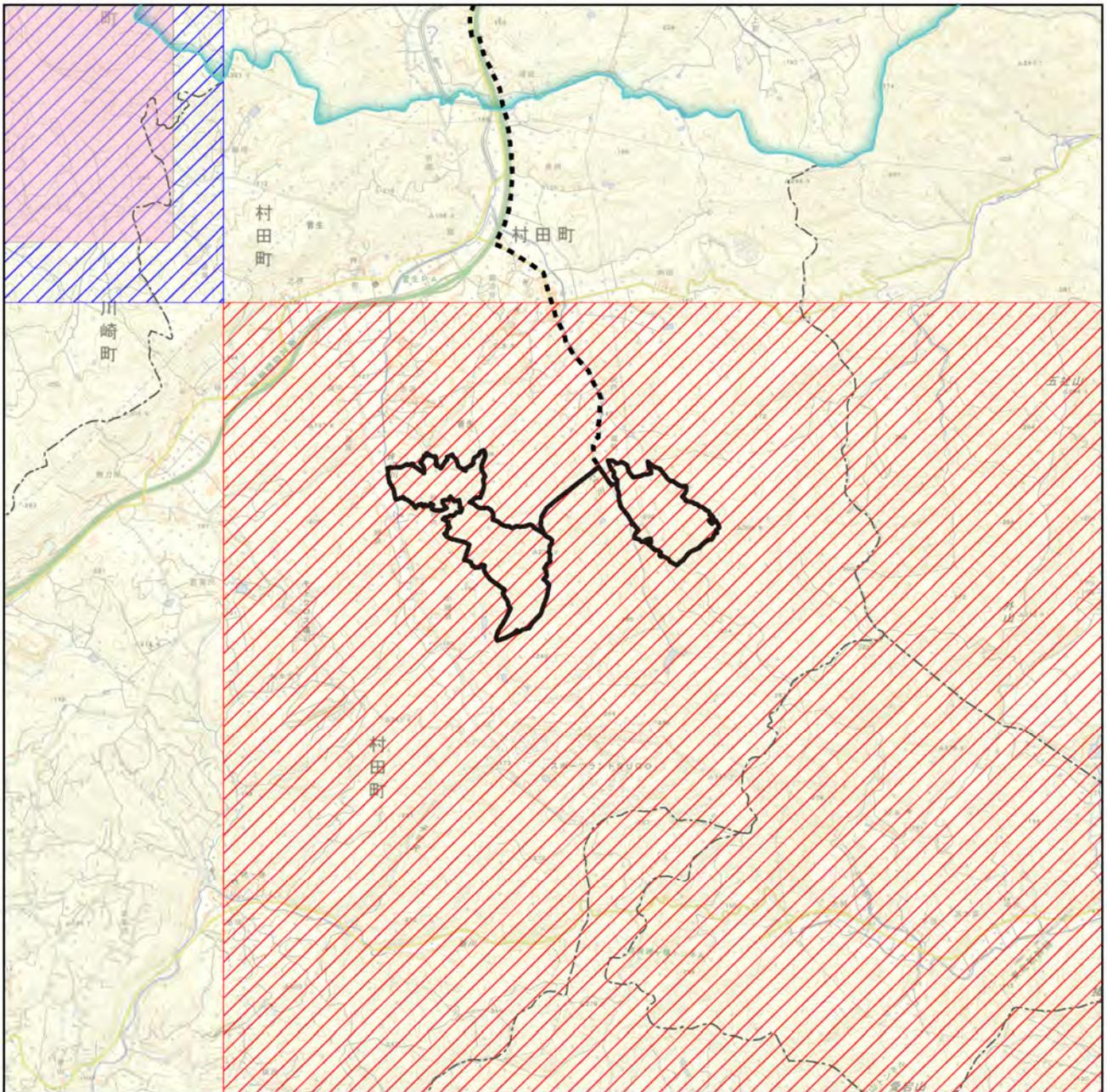


図 3.1-28 (5) 動物生息地に関する重要な自然環境のまとまりの場の状況 (村田町内)

<p>凡例</p> <p> 事業実施想定区域(村田町内) </p> <p> 事業実施想定区域 (自営線敷想定ルート) </p> <p> 行政区域 </p>		<p> イヌワシ生息地 </p> <p> ツキノワグマ、カモシカ生息地 </p> <p> 渡り鳥生息地 </p> <p> マガン </p> <p> コハクチョウ </p> <p> 動物生息地として重要な地域(仙台市) </p>	<p>N</p> <p>1:40,000</p> <p>0 0.75 1.5 km</p>
---	--	---	---

出典: 「希少猛禽類調査(イヌワシ・クマタカ)の結果について」、「要注意鳥獣(クマ等)生息分布調査」(環境省 HP)、「ガンカモ類の生息調査」、「モニタリングサイト 1000 ガンカモ類調査」(生物多様性センターHP)、「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 報告書」(仙台市 HP)、(閲覧: 令和 4 年 4 月)より作成

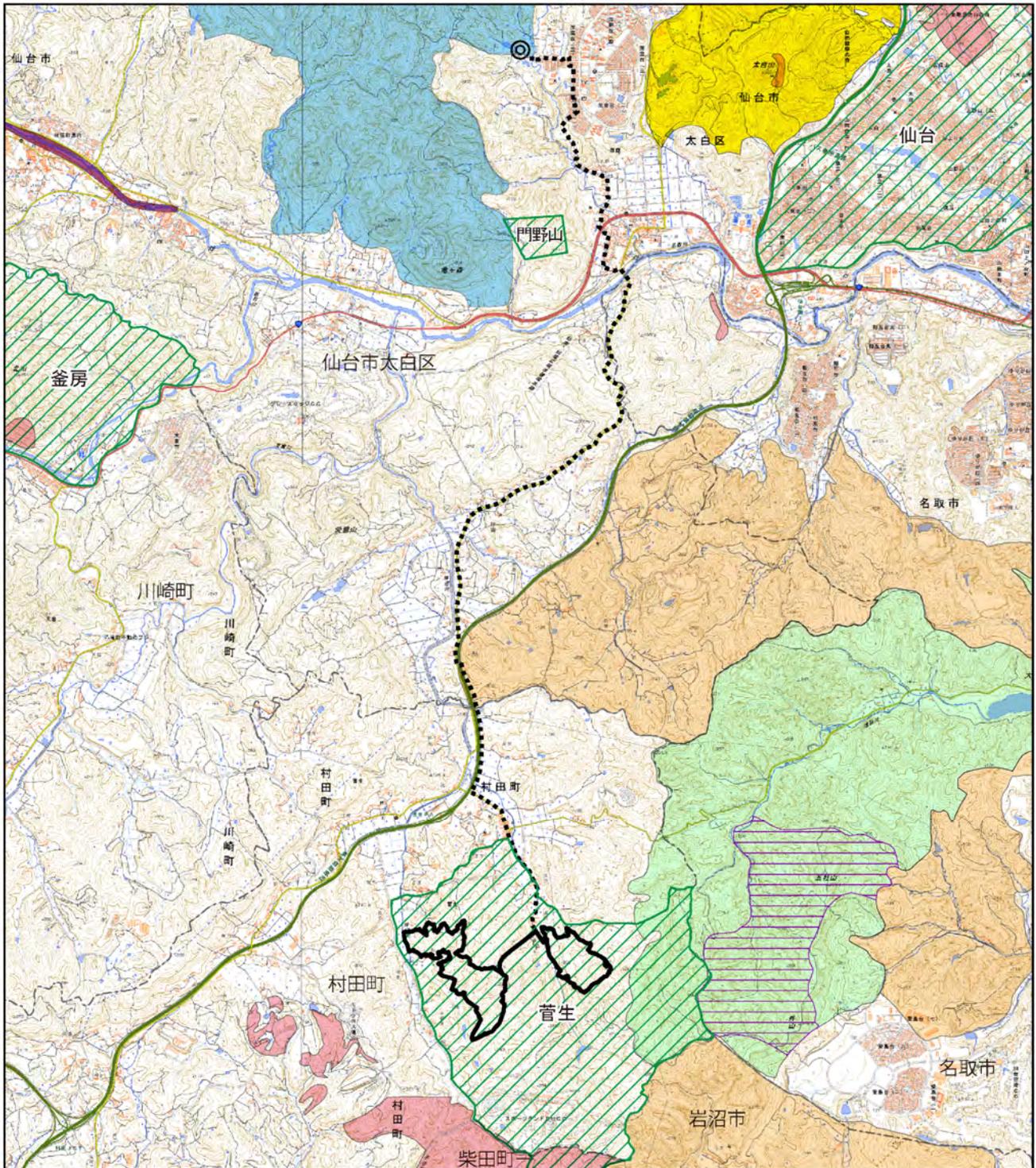


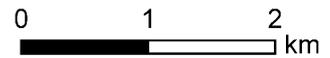
図 3.1-28(6) 法令等に関する重要な自然環境のまとまりの場の状況

凡例

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 事業実施想定区域(村田町内) | 県立自然公園二口峡谷 |
| 事業実施想定区域(仙台市内) | 樽水・五社山県自然環境保全地域(普通地区) |
| 事業実施想定区域(自営線敷設想定ルート) | 樽水・五社山県自然環境保全地域(特別地区) |
| 行政区域 | 太白山県自然環境保全地域(普通地区) |
| | 高館・千貫山緑地環境保全地域 |
| | 蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域 |
| | 鳥獣保護区 |
| | 水源かん養保安林(民有林) |



1:60,000



出典: 「令和3年度鳥獣保護区等位置図」、「自然公園等区域閲覧サービス」(宮城県HP)、「国土数値情報(鳥獣保護区データ、自然保全地域データ、森林地域データ)」(国土交通省HP)、(閲覧: 令和4年4月)より作成

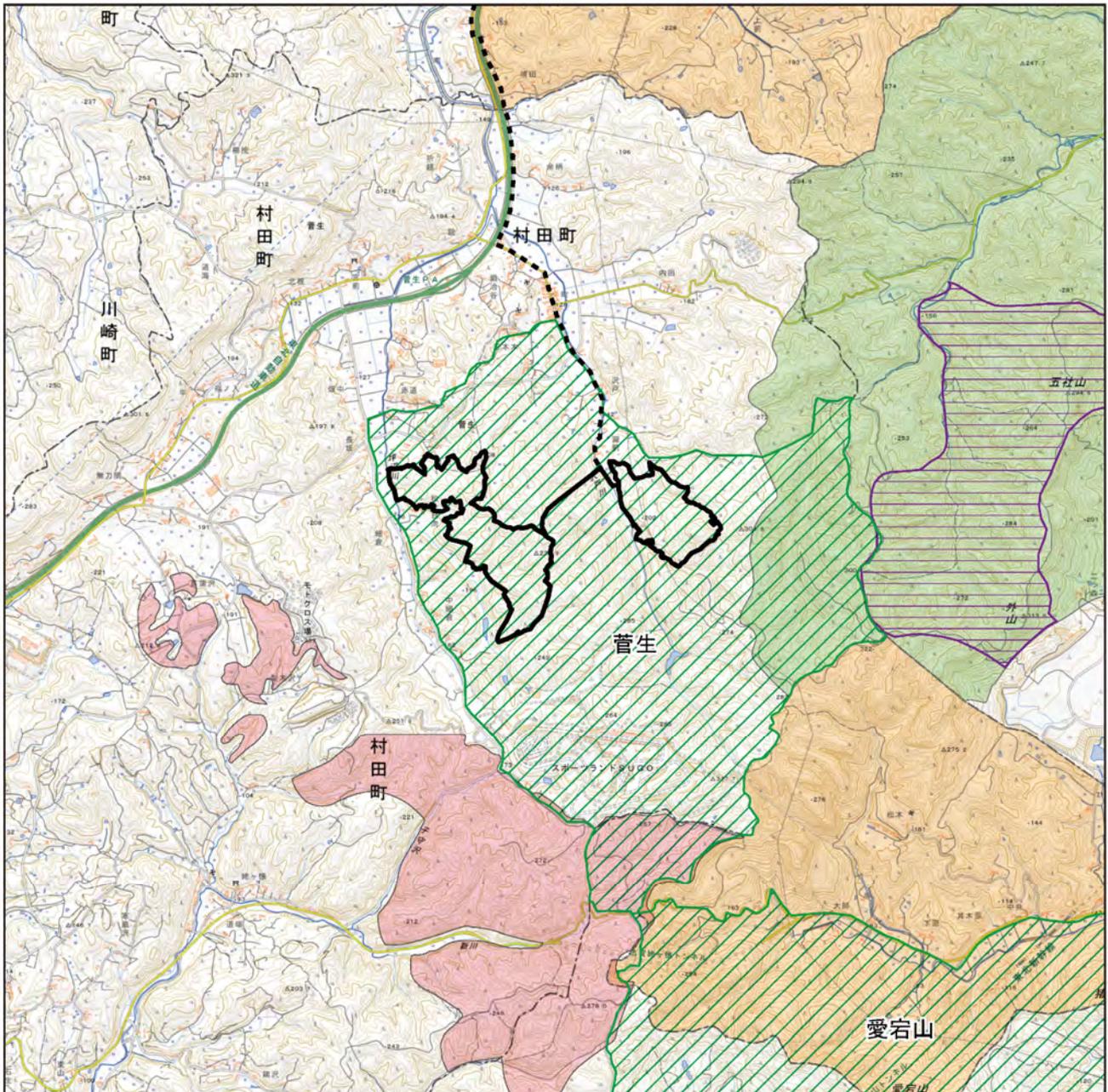


図 3.1-28(7) 法令等に関する重要な自然環境のまとまりの場の状況 (村田町内)

凡例

■ 事業実施想定区域(村田町内)

⋯ 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)

⋯ 行政区域

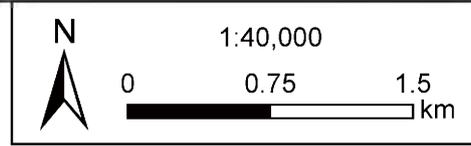
■ 樽水・五社山自然環境保全地域 (普通地区)

■ 樽水・五社山自然環境保全地域 (特別地区)

■ 高館・千貫山緑地環境保全地域

■ 鳥獣保護区

■ 水源かん養保安林 (民有林)



出典: 「令和 3 年度鳥獣保護区等位置図」、「自然公園等区域閲覧サービス」(宮城県 HP)、「国土数値情報(鳥獣保護区データ、自然保全地域データ、森林地域データ)」(国土交通省 HP)、(閲覧: 令和 4 年 4 月)より作成

3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況

景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況を把握するために収集した、文献その他の資料は以下の条件で抽出した。

- ・ 公的機関の発行資料、全国規模調査の資料等
- ・ 市町村や自治会等が作成するようなより詳しい資料や観光雑誌等

1 景観の状況

1) 主要な眺望点の状況

事業実施想定区域及びその周囲における主要な眺望点として、五社山・外山、スポーツランド SUGO（見晴台）のほか、愛宕山等が存在する。

主要な眺望点の状況を表 3.1-52 及び図 3.1-29 に示す。

表 3.1-52(1) 事業実施想定区域及びその周囲の主要な眺望点

No.	主な眺望点	参考資料 ^{*1}	地点の概要
1	五社山	五社山 (名取市観光物産協会 HP)	豊かな生物相を有し学術的にも貴重な里山です。五社山は、宮城県内で見られる典型的な里山ですが、気候に特徴があります。温暖帯から冷温帯に移行する推移帯に位置しています。この気候から、いろいろな動植物が生息する豊かな生物相をなして、学術的にも貴重な地域となっています。
	五社山・外山	第3回自然環境保全 基礎調査 宮城県自然環境情報図 (平成元年 環境庁)	自然景観資源 ・ 非火山性孤峰
2	三方塚	岩沼市の観光スポット (岩沼市 HP)	三方塚からは雄大な蔵王連峰を望むことができます。
3	スポーツランド SUGO (見晴台)	村田町の観光案内 サイト MURATABI (村田町観光物産協会 HP)	スポーツランド SUGO は 1975 年 5 月にオープンし、210 万 m ² の広大な敷地に 3 つの国際公認コースとして、レーシングコース・モトクロスコース・西コースとトライアルの専門コースを有した国内屈指のモータースポーツ施設です。
4	民話の里 民話伝承館	村田町観光マップ・ アクセス (村田町 HP)	かやぶき屋根が目を引く民話伝承館・ふるさとおとぎ苑では、昔の日常と風景を大切に守っています。構内にあるかやぶき屋根の民家は、村田町指定文化財にも指定されている、貴重な建物です。その中には昔の様子再現されており、当時の生活を静かに物語っています。
	旧八巻家住宅	町の文化財(村田町 HP)	村田町指定有形文化財
5	姥の手掛け石	村田町観光総合ガイド (村田町 HP)	京都で鬼の片腕を切り落とした源頼光の家来・渡辺綱。鬼は村田町までやって来て、綱の伯母に化けることで腕を取り戻したものの、逃げ去る途中で綱に追いかけれられ攻守逆転。その際に鬼が滑って転び手をついた跡が、この「姥の手掛け石」だと言われています。
6	岩蔵寺	宮城まるごと探訪 (宮城県観光連盟 HP)	岩沼市内で最古の寺院であり、貞観 2 年(860)に慈覚大師によって開かれたと伝えられる。現存する薬師堂は戦国時代から江戸時代初期に築造されたと考えられ、堂内には近江国(滋賀県)から勧請したという本尊が秘仏として開かずの厨子に納められている。
7	菅生神社	菅生神社 (宮城県神社庁 HP) 町の文化財(村田町 HP)	菅生神社は、桓武天皇の延暦年中(782~805)坂上田村麻呂東征のみぎり、武甕槌神外五神を勧請し、国家安穩・産業振興を祈請した。祭礼日に神輿や神楽が行われ、菅生神社神楽は町の無形民俗文化財に指定されている。

表 3.1-52(2) 事業実施想定区域及びその周囲の主要な眺望点

No.	主な眺望点	参考資料※1	地点の概要
8	太白山	太白山県自然環境保全地域 (宮城県 HP)	県自然環境保全地域 太白山には登山道が整備されており、休日等には、家族連れなど多くの登山客が山頂をめざして汗を流しています。太白山(標高 320.7m)の本体は、今から数百万年前に火山の溶岩通り道に貫入した溶岩でできており、たいへん堅い岩石のため、火山本体が侵食された後も侵食されずに残り、三角錐の美しい形になりました。この地域には、約 700 種の高等植物が生育し、トウゴクミツバツツジ、センダイトウヒレンなど北限に近い種もあります。また、春の女神とも言われるヒメギフチョウの生息が知られており、ヒメギフチョウの食草であるウスバサイシンを見ることができます。
9	鹿の上山	第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源(昭和 62 年 環境庁) 平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 (仙台市 HP)	自然景観資源 ・非火山性孤峰 県緑地環境保全地域 北赤石にある火山岩頭。中の森、亀ヶ森と合わせて三高ヶ森とよばれる。標高 326m、比高 160m。
10	中の森	第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源(昭和 62 年 環境庁) 平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 (仙台市 HP)	自然景観資源 ・非火山性孤峰 県緑地環境保全地域 北赤石にある火山岩頭。鹿の上山、亀ヶ森と合わせて三高ヶ森とよばれる。円錐形の山が 3 つ並んでそびえ、中央の中の森にはさまざまな神がまつられている。標高 292m、比高 135m。
11	亀ヶ森	第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源(昭和 62 年 環境庁) 平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 (仙台市 HP)	自然景観資源 ・非火山性孤峰 県緑地環境保全地域 北赤石にある火山岩頭。中の森、鹿の上山と合わせて三高ヶ森とよばれる。標高 344.5m、比高 220m。
12	愛宕山	第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源(昭和 62 年 環境庁) 平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 (仙台市 HP)	自然景観資源 ・非火山性孤峰 生物多様性保全上重要な里地里山 坪沼地区にある。標高 325m、比高 125m。

※1. 出典は、参考資料の各 HP(閲覧:令和 4 年 4 月)より作成。

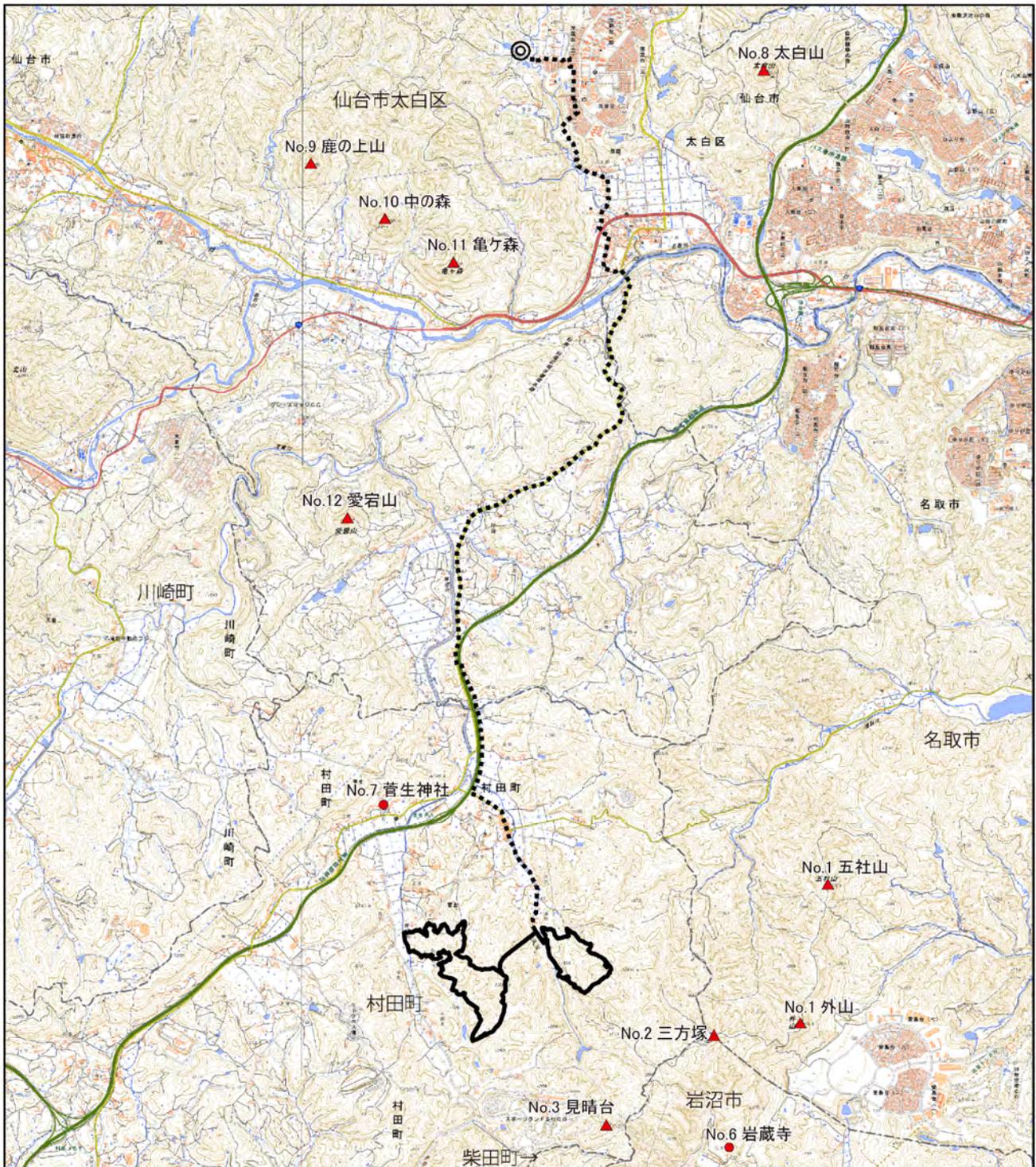


図 3.1-29(1) 主要な眺望点の状況

凡例

■ 事業実施想定区域(村田町内)

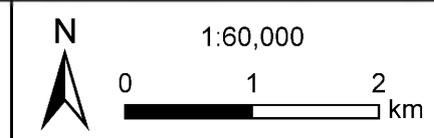
◎ 事業実施想定区域(仙台市内)

----- 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)

--- 行政区域

▲ } 主要な眺望点

※ 図中の No. は表 3.1-52 に対応する。



出典: 「名取市観光物産協会 五社山」(名取市観光物産協会 HP)、「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査」(環境省生物多様性センター HP)、「岩沼市の観光スポット 志賀高原ハイキングコース」(岩沼市 HP)、「村田町の観光案内サイト MURATABI」(村田町観光物産協会 HP)、「村田町観光マップ・アクセス 民話の里」(村田町観光総合ガイド) (村田町 HP)、「宮城まるごと探訪 岩蔵寺」(宮城県観光連盟 HP)、「菅生神社」(宮城県神社庁 HP)。(閲覧:令和 4 年 4 月)より作成

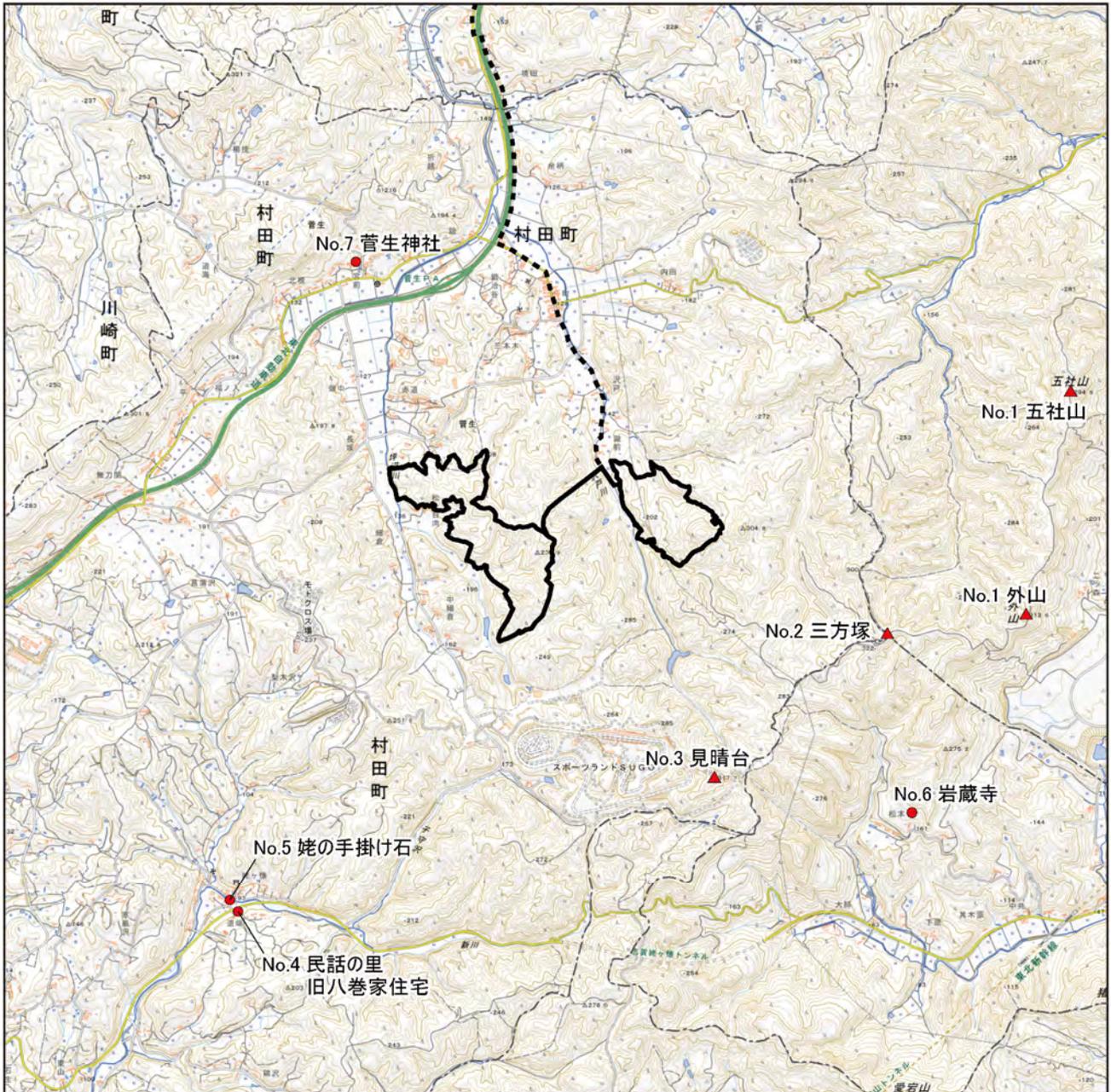
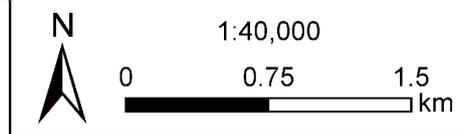


図 3.1-29(2) 主要な眺望点の状況 (村田町内)

凡例

- 事業実施想定区域(村田町内)
- 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)
- 行政区域

- ▲ } 主要な眺望点
- }



※ 図中の No. は表 3.1-52 に対応する。

出典: 「名取市観光物産協会 五社山」(名取市観光物産協会 HP)、「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査」(環境省生物多様性センターHP)、「岩沼市の観光スポット 志賀高原ハイキングコース」(岩沼市 HP)、「村田町の観光案内サイト MURATABI」(村町観光物産協会 HP)、「村田町観光マップ・アクセス 民話の里」、「村田町観光総合ガイド」(村田町 HP)、「宮城まるごと探訪 岩蔵寺」(宮城県観光連盟 HP)、「菅生神社」(宮城県神社庁 HP)、「(閲覧:令和 4 年 4 月)より作成

2) 主要な景観資源

事業実施想定区域及びその周囲における主要な自然景観資源として、五社山・外山、歴史的・文化的景観資源として、民話の里や岩蔵寺などが存在する。

事業実施想定区域及びその周囲における景観資源の状況を表 3.1-53 及び図 3.1-30 に示す。

表 3.1-53(1) 事業実施想定区域及びその周囲の自然景観資源

No.	自然景観資源	所在地	種類	指定状況
1	五社山・外山	名取市	非火山性孤峰	樽水・五社山県自然環境保全地域
2	愛宕山	仙台市太白区	非火山性孤峰	生物多様性保全上重要な里地里山(坪沼地区)
3	仙台市北赤石名取川畔	仙台市太白区	河成段丘	
4	碁石川溪谷	仙台市太白区	峡谷・溪谷	
5	亀ヶ森	仙台市太白区	非火山性孤峰	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域
6	中の森	仙台市太白区	非火山性孤峰	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域
7	磊々峡	仙台市太白区	峡谷・溪谷	県立自然公園二口溪谷 仙台市 緑の名所 100 選
8	鹿の上山	仙台市太白区	非火山性孤峰	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域
9	太白山	仙台市太白区	非火山性孤峰	太白山県自然環境保全地域

出典：「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査」、「生物多様性保全上重要な里地里山」(環境省生物多様性センターHP)、「県自然環境保全地域・緑地環境保全地域」(宮城県HP)、「仙台市 緑の名所 100 選」(仙台市HP) (閲覧:令和4年4月)より作成

表 3.1-53(2) 事業実施想定区域及びその周囲の歴史的・文化的景観資源

No.	歴史的・文化的景観資源	所在地	種類	指定状況
10	生出山八幡神社里宮	仙台市太白区	社寺	仙台市指定登録文化財
11	旧伊達邸	仙台市太白区	歴史的建造物	仙台市指定登録文化財
12	上前十三塚	仙台市太白区	有形民俗文化財	仙台市指定登録文化財
13	民話の里	村田町	文化的観光施設	
	旧八巻家住宅	村田町	歴史的建造物	村田町指定有形文化財
14	源蔵沢の板碑	村田町	歴史資料	村田町指定有形文化財
15	猫神の石碑	村田町	歴史資料	村田町指定有形文化財
16	菅生館跡	村田町	史跡	村田町指定記念物
17	シダレザクラ	村田町	天然記念物	村田町指定記念物
18	姥の手掛け石	村田町	社寺	
19	菅生神社	村田町	社寺	
20	三方塚	岩沼市	岩沼市最高峰	
21	岩蔵寺	岩沼市	社寺	
22	滝前不動のフジ	川崎町	天然記念物	史跡名勝天然記念物

出典：「村田町観光マップ・アクセス民話の里」、「村田町観光総合ガイド」、「町の文化財」(村田町HP)、「岩沼市の観光スポット志賀高原ハイキングコース」(岩沼市HP)、「宮城まるごと探訪 岩蔵寺」(宮城県観光連盟HP)、「仙台市の文化財」(仙台市HP)、「文化遺産オンライン」(文化庁HP) (閲覧:令和4年4月)より作成

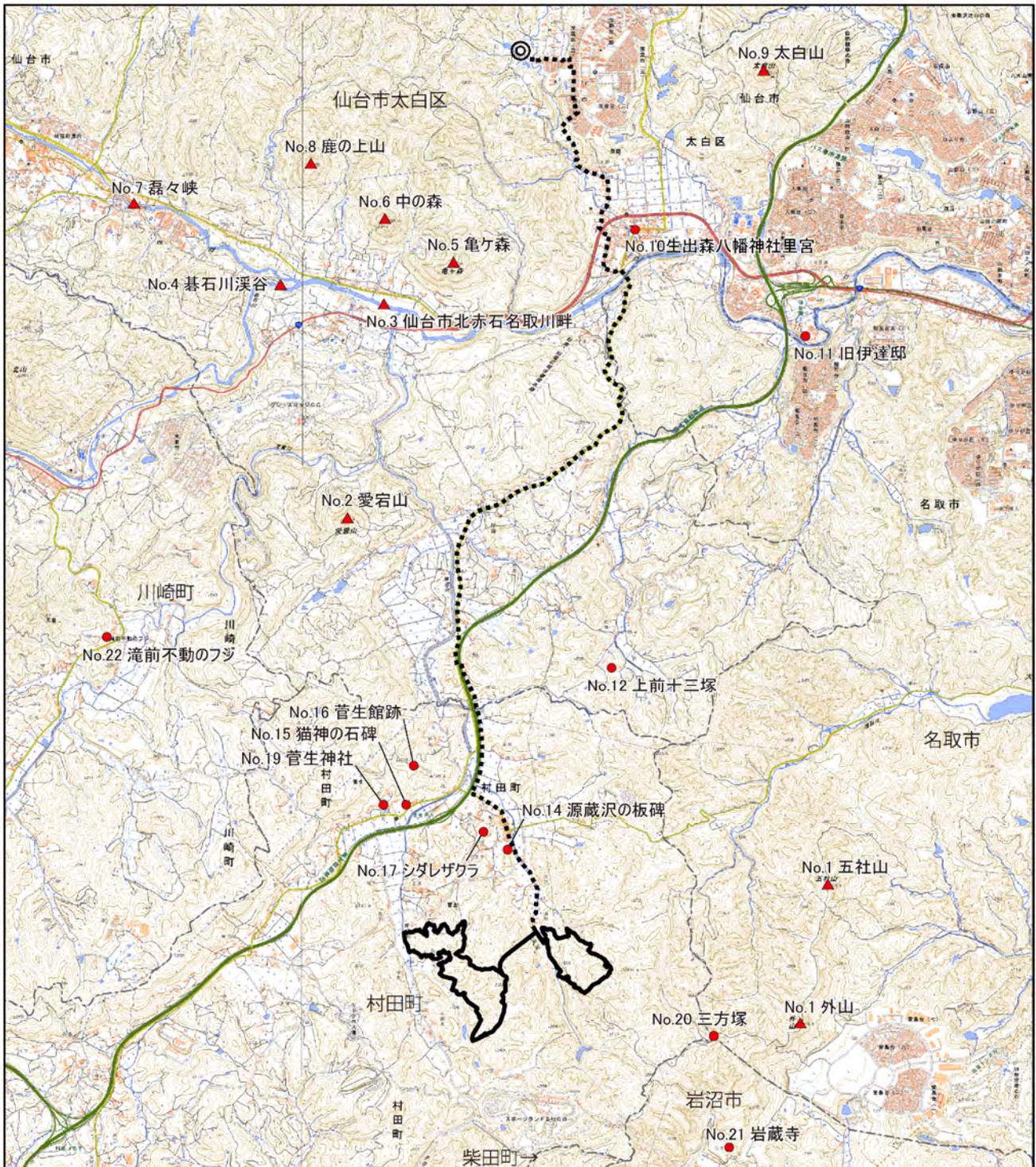
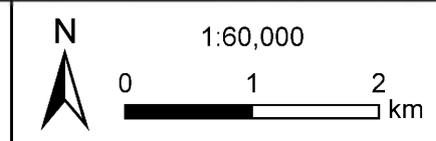


図 3.1-30(1) 主要な景観資源の状況

凡例

- 事業実施想定区域(村田町内)
- 事業実施想定区域(仙台市内)
- 事業実施想定区域(自営線敷設想定ルート)
- 行政区域

- ▲ 自然景観資源
- 歴史的・文化的景観資源



※ 図中のNo. は表 3.1-53 に対応する。

出典：「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査」(環境省生物多様性センターHP)、「村田町観光マップ・アクセス民話の里」、「村田町観光総合ガイド」、「町の文化財」(村田町HP)、「宮城まるごと探訪 岩蔵寺」(宮城県観光連盟HP)、「仙台市の文化財」(仙台市HP)、「文化遺産オンライン」(文化庁HP)、(閲覧:令和4年4月)より作成

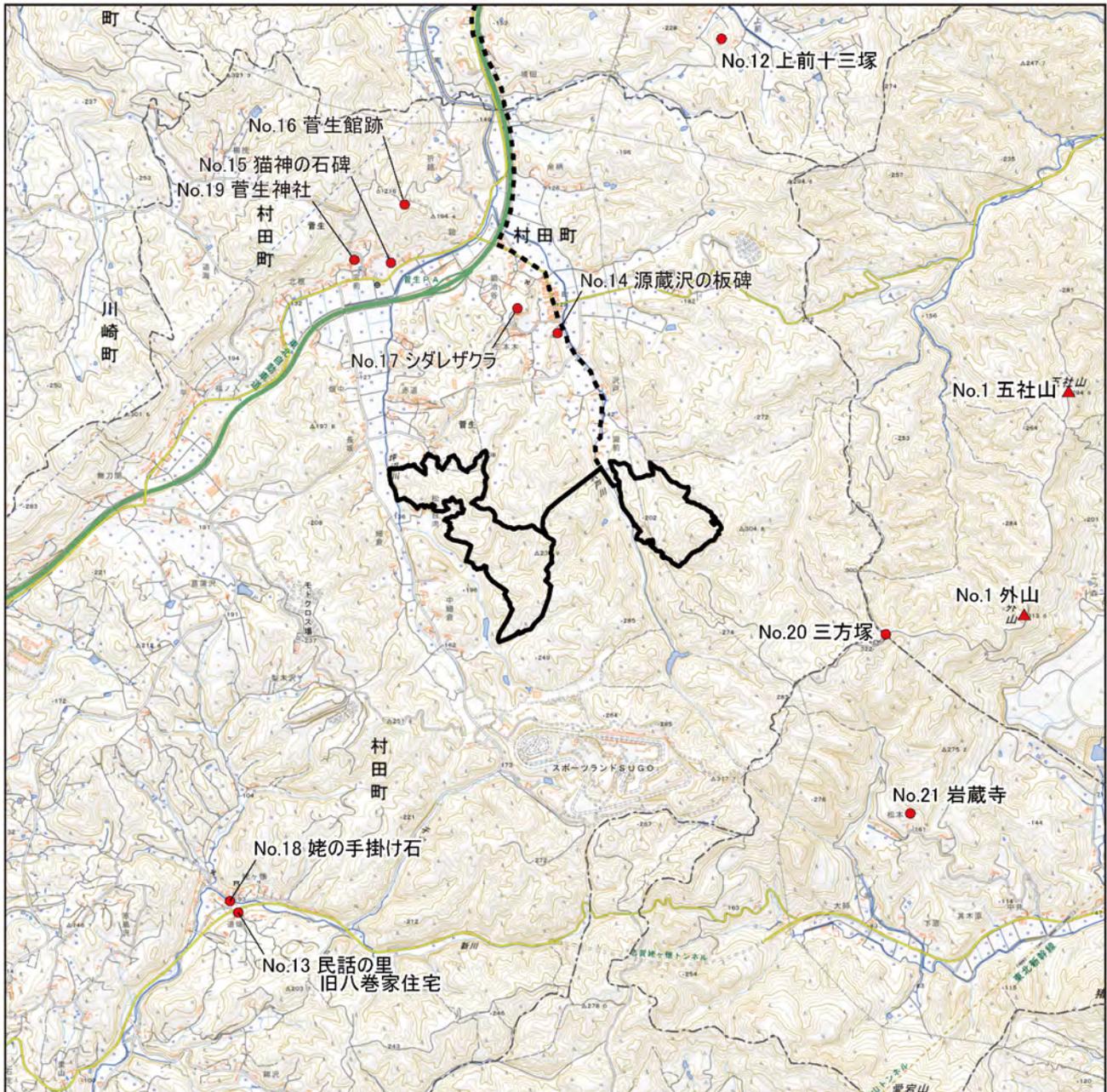
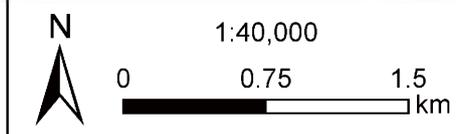


図 3.1-30(2) 主要な景観資源の状況 (村田町内)

凡例

- 事業実施想定区域(村田町内)
- 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)
- 行政区域

- ▲ 自然景観資源
- 歴史的・文化的景観資源



※ 図中のNo. は表 3.1-53 に対応する。

出典: 「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査」(環境省生物多様性センターHP)、「村田町観光マップ・アクセス民話の里」、「村田町観光総合ガイド」、「町の文化財」(村田町HP)、「宮城まるごと探訪 岩蔵寺」(宮城県観光連盟HP)、「仙台市の文化財」(仙台市HP)、「文化遺産オンライン」(文化庁HP)、(閲覧:令和4年4月)より作成

2 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

事業実施想定区域及びその周囲における主要な人と自然との触れ合いの活動の場として、スポーツランドSUGOや五社山自然観察路等が存在する。

事業実施想定区域及びその周囲における人と自然との触れ合いの活動の場の状況を表 3.1-54 及び図 3.1-30 に示す。

表 3.1-54(1) 事業実施想定区域及びその周囲の主要な人と自然との触れ合いの活動の場

No.	人と自然との触れ合いの活動の場	参考資料※ ¹	地点の概要
1	五社山自然観察路 五社山 外山	五社山自然観察路 (名取市 HP)	愛島地区にあるハイキングコース。コナラ・クリ林等の自然に生息する動植物を観察し、五社山展望広場からは太平洋を航行する船まで見渡すことができます。
2	志賀高原ハイキングコース 三方塚	岩沼市の観光スポット (岩沼市 HP)	千貫丘陵にあるハイキングコースで全長は 8.2km ほどあり、所要時間は約 2 時間半です。山頂の三方塚からは雄大な蔵王連峰を望むことが出来ます。付近には、平安時代の高僧・慈覚大師の開山と伝わる岩蔵寺や、慈覚大師が杖でついた場所から湧き出たと伝わる湧水もあります。春はわらび・ぜんまい・蒨などの山菜やかたくり等の野草の花々、夏は緑の山々を望む雄大な景色、秋はマツムシ草の花、栗やきのこやアケビなど、四季折々の景色が楽しめます。晩秋には、山全体が紅葉で美しく彩られます。
	岩蔵寺	宮城まるごと探訪 (宮城県観光連盟 HP)	岩沼市内で最古の寺院であり、貞観 2 年(860)に慈覚大師によって開かれたと伝えられる。現存する薬師堂は戦国時代から江戸時代初期に築造されたと考えられ、堂内には近江国(滋賀県)から勧請したという本尊が秘仏として開かずの厨子に納められている。
3	スポーツランド SUGO 見晴台	村田町の観光案内サイト MURATABI (村田町観光物産協会 HP)	スポーツランド SUGO は 1975 年 5 月にオープンし、210 万㎡の広大な敷地に 3 つの国際公認コースとして、レーシングコース・モトクロスコース・西コースとトライアルの専門コースを有した国内屈指のモータースポーツ施設です。
4	民話の里 民話伝承館	村田町観光マップ・アクセス (村田町 HP)	かやぶき屋根が目を引く民話伝承館・ふるさとおとぎ苑では、昔の日常と風景を大切に守っています。構内にあるかやぶき屋根の民家は、村田町指定文化財にも指定されている、貴重な建物です。その中は昔の様子が再現されており、当時の生活を静かに物語っています。
	旧八巻家住宅	町の文化財 (村田町 HP)	村田町指定有形文化財
5	姥の手掛け石	村田町観光総合ガイド (村田町 HP)	京都で鬼の片腕を切り落とした源頼光の家来・渡辺綱。鬼は村田町までやって来て、綱の伯母に化けることで腕を取り戻したものの、逃げ去る途中で綱に追いかけられ攻守逆転。その際に鬼が滑って転び手をついた跡が、この「姥の手掛け石」だと言われています。
6	菅生神社	菅生神社 (宮城県神社庁 HP) 町の文化財(村田町 HP)	菅生神社は、桓武天皇の延暦年中(782~805)坂上田村麻呂東征のみぎり、武甕槌神外五神を勧請し、国家安穏・産業振興を祈請した。祭礼日に神輿や神楽が行われ、菅生神社神楽は町の無形民俗文化財に指定されている。

表 3.1-54(2) 事業実施想定区域及びその周囲の主要な人と自然との触れ合いの活動の場

No.	人と自然との触れ合いの活動の場	参考資料※1	地点の概要
7	太白山	太白山県自然環境保全地域 (宮城県 HP)	県自然環境保全地域 太白山には登山道が整備されており、休日等には、家族連れなど多くの登山客が山頂をめざして汗を流しています。 太白山(標高 320.7m)の本体は、今から数百万年前に火山の溶岩通り道に貫入した溶岩でできており、たいへん堅い岩石のため、火山本体が侵食された後も侵食されずに残り、三角錐の美しい形になりました。この地域には、約 700 種の高等植物が生育し、トウゴクミツバツツジ、センダイトウヒレンなど北限に近い種もあります。また、春の女神とも言われるヒメギフチョウの生息が知られており、ヒメギフチョウの食草であるウスバサイシンを見ることもできます。
8	仙台市北赤石名取川畔	第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源 (昭和 62 年 環境庁) 平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 (仙台市 HP)	自然景観資源 ・河成段丘 段丘崖に残された植生は貴重な自然的景観である。 延長 4.1km、比高 40m、段数 1。
9	碓石川溪谷	第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源 (昭和 62 年 環境庁) 平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査 (仙台市 HP)	自然景観資源 ・峡谷・溪谷 延長 2.5km、巾 200～300m、深さ 100～200m。
10	磊々峡	仙台市 緑の名所 100 選 (仙台市 HP)	県立自然公園二口峡谷 「磊々峡」は、名取川の流れがひときわ狭くなる秋保温泉湯元付近にある溪谷です。秋保温泉街の入口にある「硯橋」が磊々峡のほぼ真中に位置し、この橋を挟んで上下約 1km の長さにわたり、深さが 20m にも達する溪谷美が続いています。硯橋の両側には、岩を削る急流と迫力ある岩々が眼下に広がっています。また、下流側に向かって溪谷沿いに約 700m の遊歩道が続き、「八間巖」「鳴合底」「鬼面巖」などの奇勝や「時雨滝」「三筋滝」などの滝が織りなす美しさを堪能することができます。溪谷沿いの木々の葉が鮮やかな新緑の頃や紅葉に染まる頃は水面に映え、一段と美しい景観を見せてくれます。
11	シダレザクラ	文化遺産オンライン シダレザクラ (文化庁 HP)	村田町指定天然記念物 樹高 15.0m、胸高直径 86.8cm、推定樹齢 300 年
12	滝前不動のフジ	文化遺産オンライン 滝前不動のフジ (文化庁 HP)	国指定天然記念物 このフジが生育しているところは、スギ、ケヤキ、イタヤカエデなどの落葉樹にかこまれた不動堂の境内で、高さ 22m のスギ、ケヤキなどからまり、フジが生育している。このフジは、根元より 3 幹に分かれ、3 幹全体の根元の周囲は 4.8m、主幹の根元の周囲 2.7m、西支幹の根元の周囲 1.45m、南支幹の根元は 1.41m と最大級のフジに属する。

※1. 出典は、参考資料の各 HP(閲覧:令和 4 年 4 月)より作成

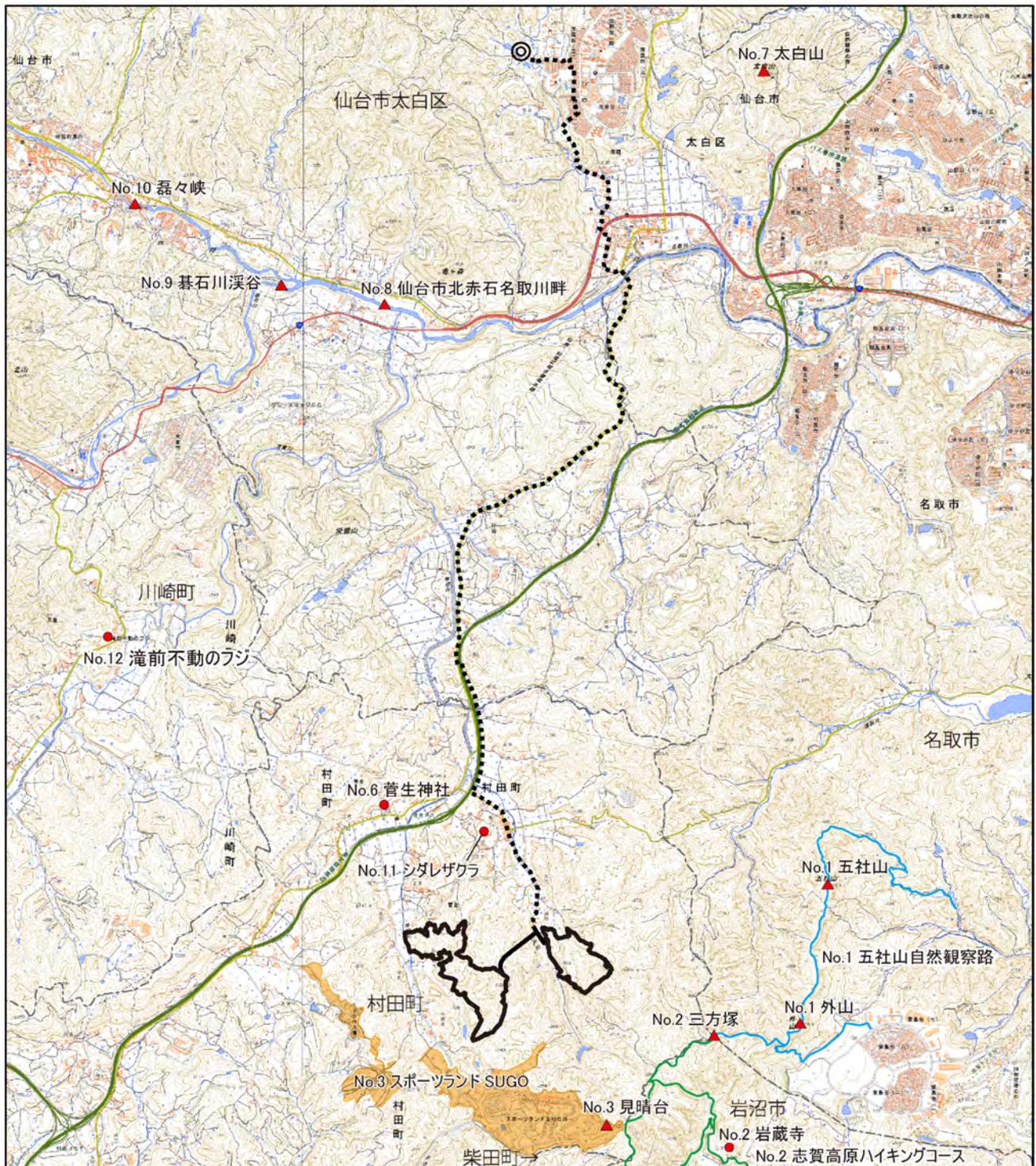


図 3.1-31(1) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

凡例

■ 事業実施想定区域(村田町内)

◎ 事業実施想定区域(仙台市内)

⋯⋯⋯ 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)

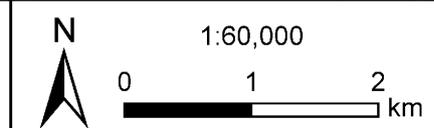
⋯⋯⋯ 行政区域

▲ } 人と自然との触れ合いの
● } 活動の場

■ スポーツランドSUGO

— 五社山自然観察路

— 志賀高原ハイキングコース



※ 図中の No. は表 3.1-54 に対応する。

出典: 「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査」(環境省生物多様性センターHP)、「五社山自然観察路」(名取市 HP)、「岩沼市の観光スポット 志賀高原ハイキングコース」(岩沼市 HP)、「村田町の観光案内サイト MURATABI」(村田町観光物産協会 HP)、「村田町観光マップ・アクセス民話の里」,「村田町観光総合ガイド」(村田町 HP)、「宮城まるごと探訪 岩蔵寺」(宮城県観光連盟 HP)、「菅生神社」(宮城県神社庁 HP)、「文化遺産オンライン」(文化庁 HP)、(閲覧:令和 4 年 4 月)より作成

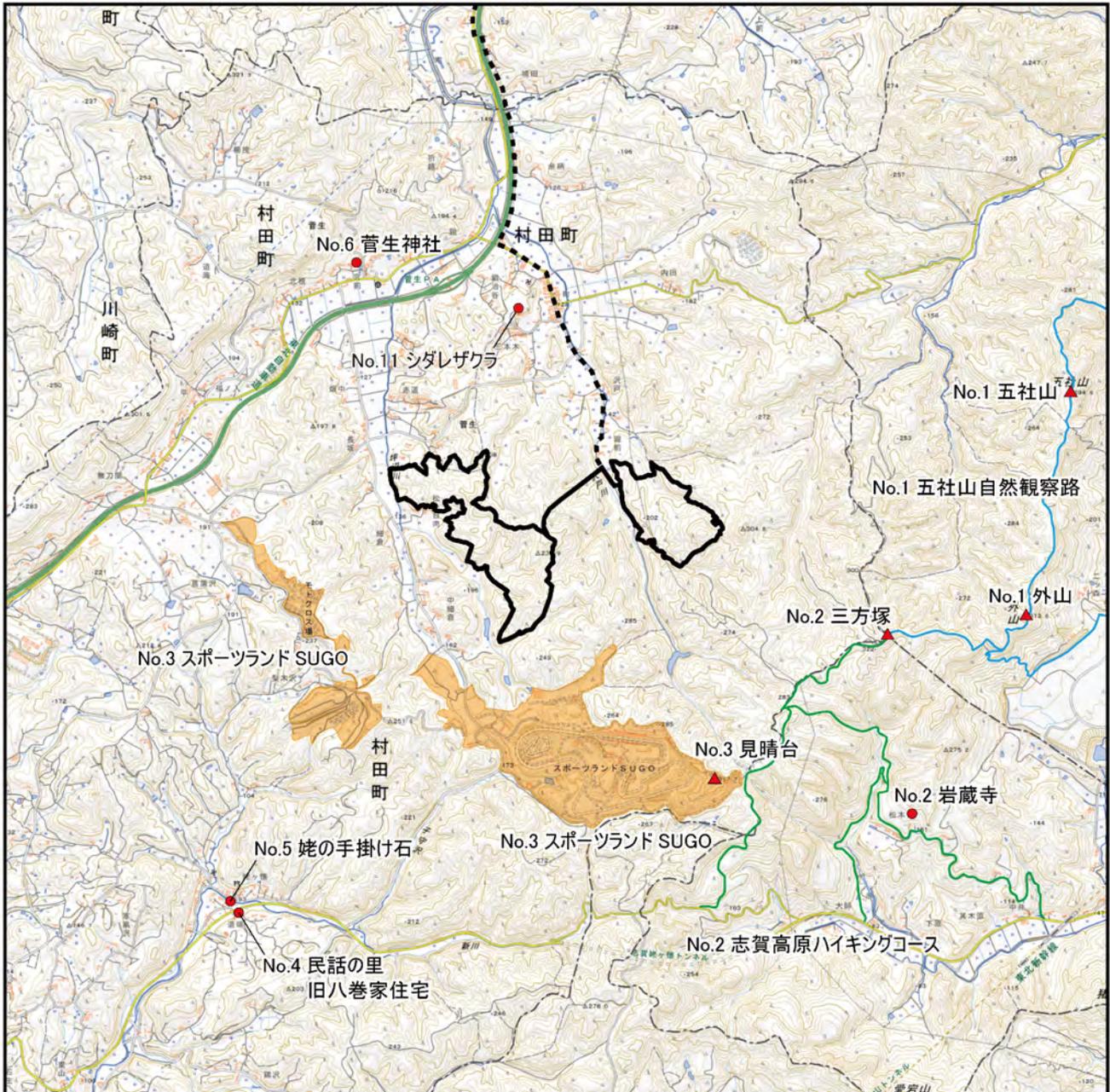


図 3.1-31(2) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況（村田町内）

<p>凡例</p> <p> 事業実施想定区域(村田町内) 事業実施想定区域 (自営線敷想定ルート) 行政区域 </p>	<p> } 人と自然との触れ合いの活動の場 } スポーツランドSUGO 五社山自然観察路 志賀高原ハイキングコース </p>	<p>N</p> <p>1:40,000</p> <p>0 0.75 1.5 km</p>
<p>※ 図中の No. は表 3.1-54 に対応する。</p>		
<p>出典：「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査」（環境省生物多様性センターHP）、「五社山自然観察路」（名取市 HP）、「岩沼市の観光スポット 志賀高原ハイキングコース」（岩沼市 HP）、「村田町の観光案内サイト MURATABI」（村田町観光物産協会 HP）、「村田町観光マップ・アクセス民話の里」、「村田町観光総合ガイド」（村田町 HP）、「宮城まるごと探訪 岩蔵寺」（宮城県観光連盟 HP）、「菅生神社」（宮城県神社庁 HP）、「文化遺産オンライン」（文化庁 HP）、（閲覧：令和 4 年 4 月）より作成</p>		

3.1.7 一般環境中の放射性物質の分布状況

1 空間線量率の状況

事業実施想定区域及びその周囲における空間線量率は、村田町役場において測定されている。

村田町役場における過去5年（平成29年度～令和3年度）の空間線量率を表3.1-55に示す。また、測定地点位置を図3.1-32に示す。

空間線量率の年間の平均値は0.024 μ Sv/hであり平成29年度から横ばい傾向にある。

表 3.1-55 空間線量率の年度別平均値

測定機関	地点名	空間線量率(μ Sv/h)					測定高さ(cm)
		平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年)	令和2年度	令和3年度	
宮城県	村田町役場	0.024	0.024	0.024	0.024	0.024	100

出典：「放射線モニタリング情報」、「放射線モニタリング情報共有・公表システム」（原子力規制委員会HP、閲覧：令和4年4月）より作成

2 公共用水域における放射性物質の状況

事業実施想定区域及びその周囲における公共用水域の放射性物質は、環境省によるモニタリング調査が年間4回行われており、測定結果が公表されている。令和3年度では宮城県内の河川43地点、湖沼21地点、沿岸12地点で測定されている。

事業実施想定区域の最寄りの測定地点である薬師橋及び樽水ダムにおける過去5年（平成29年度～令和3年度）の放射性物質の測定結果を表3.1-56に示す。また、測定地点位置を図3.1-33に示す。

水質の放射性物質は検出下限値以下であり、底質は11～136.0 Bq/kg、土壌は74.4～576.5 Bq/kg、空間線量率は0.04～0.05 μ Sv/hとなっている。

表 3.1-56 公共用水域における放射性物質の測定結果

調査地点	項目	単位	放射性物質濃度					検出下限値	
			平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年)	令和2年度	令和3年度		
河川	薬師橋	水質	Bq/l	<1	<1	<1	<1	<1	<1
		底質	Bq/kg	15.5	19.3	15.8	11	13	<10
		土壌	Bq/kg	141.9	74.4	109.8	109.8	114.5	<10
		空間線量	μ Sv/h	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	-
湖沼・水源地	樽水ダム	水質	Bq/l	<1	<1	<1	<1	<1	<1
		底質	Bq/kg	96.0	132.5	136.0	18.0	50.0	<10
		土壌	Bq/kg	576.5	143	225.5	150.0	185.0	<10
		空間線量	μ Sv/h	0.05	0.05	0.04	0.04	0.05	-

出典：「宮城県内の公共用水域及び地下水における放射性物質モニタリングの測定結果(速報)について」（宮城県HP、閲覧：令和4年4月）より作成

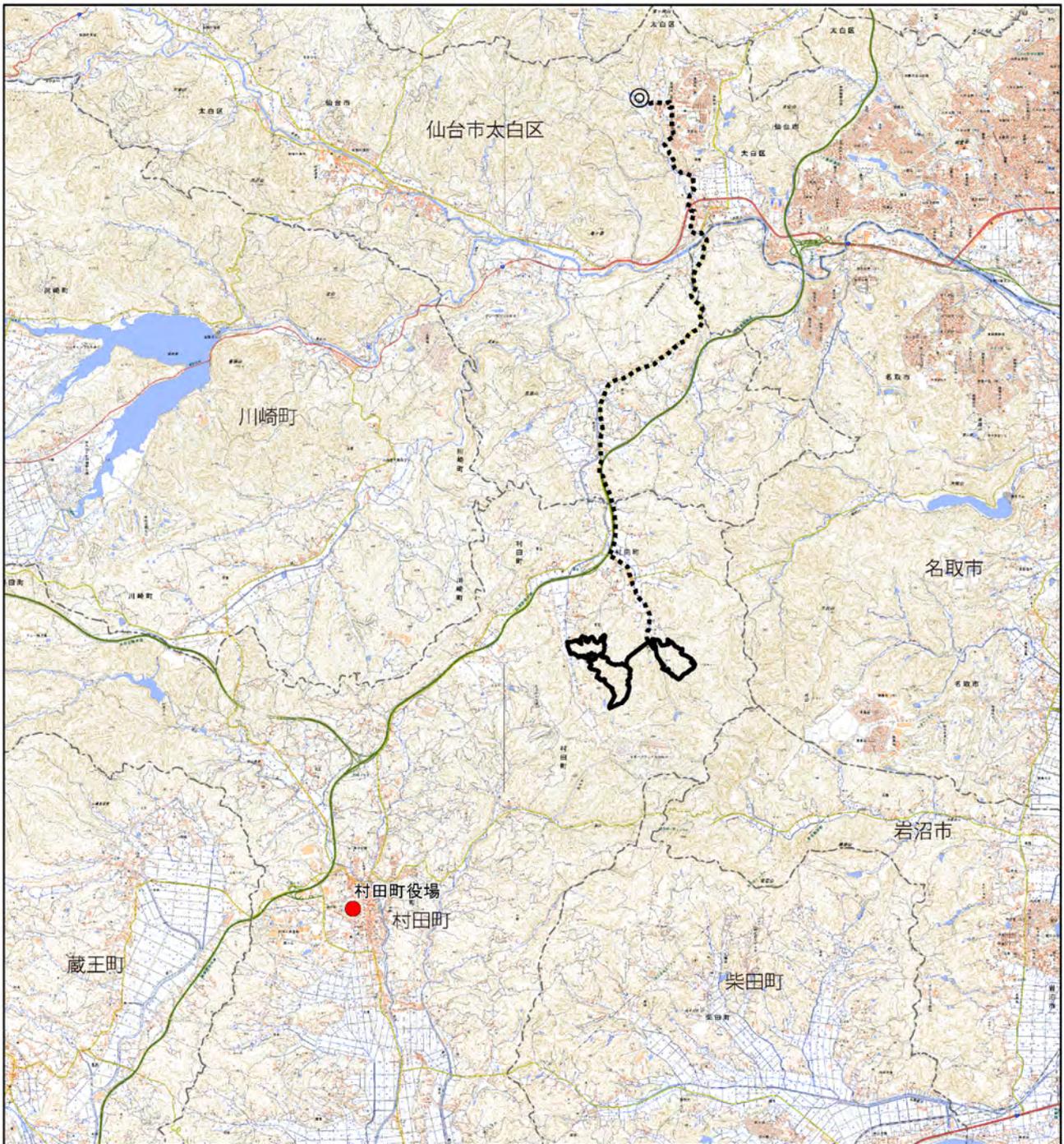
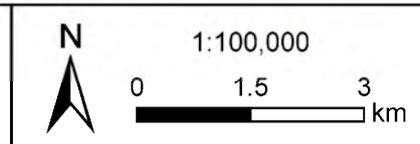


図 3.1-32 空間放射線量率測定地点

凡例

- 事業実施想定区域(村田町内)
- 事業実施想定区域(仙台市内)
- 事業実施想定区域(自営線敷設想定ルート)
- 行政区域
- 空間放射線量率測定地点



出典:「放射線モニタリング情報」(原子力規制委員会 HP、閲覧:令和4年4月)より作成

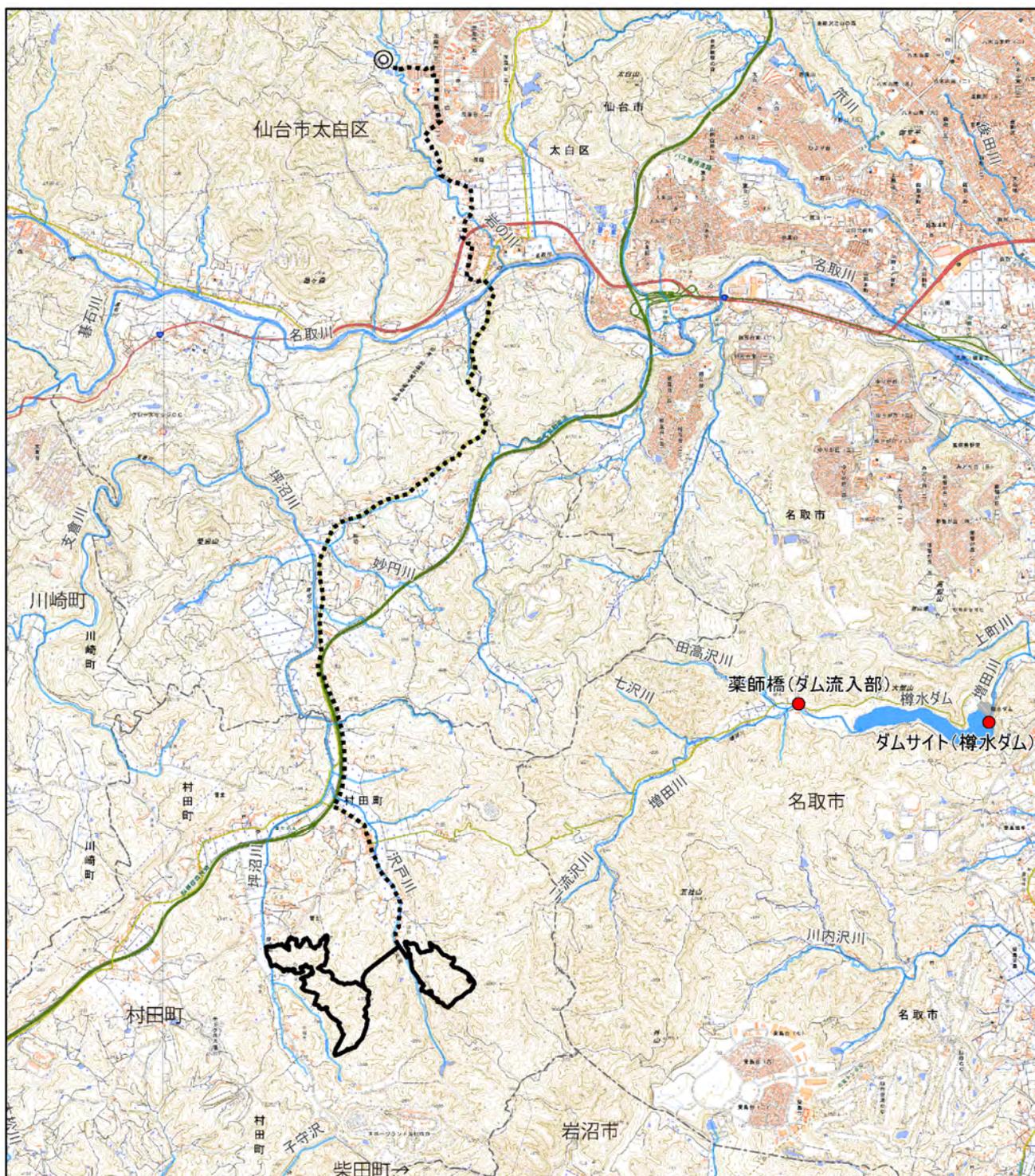


図 3.1-33 公共用水域における放射性物質の測定地点

凡例

■ 事業実施想定区域(村田町内)

⊗ 事業実施想定区域(仙台市内)

⋯ 事業実施想定区域
(自営線敷設想定ルート)

⋯ 行政区域

● 公共用水域水質調査地点

— 河川



1:60,000

0 1 2 km

出典: 「宮城県内の公共用水域及び地下水における放射性物質モニタリングの測定結果(速報)について」
(宮城県HP、閲覧:令和4年4月)より作成